

2026年度

大学院シラバス



日本女子体育大学大学院

目 次

スポーツ科学論特講	1
スポーツ医学特講	2
スポーツ生理学特講	3
体力とスキルのトレーニング科学特講	4
スポーツバイオメカニクス特講	5
スポーツ外傷リハビリテーション特講	6
スポーツコーチング論特講	7
スポーツ戦術論特講	8
スポーツ技術論特講	9
ライフステージと健康科学論特講	10
スポーツ栄養学特講	11
スポーツ心理学特講	12
スポーツマーケティング特講	13
スポーツ政策論特講	14
スポーツ組織論特講	15
体育・スポーツ教育論特講	16
スポーツ運動発生論特講	17
舞踊教育法特講	18
舞踊表現論特講	19
舞踊演出法特講	20
比較舞踊学特講	21
マルチメディア・パフォーマンス特講	22
健康教育とヘルスプロモーション特講	23
体育・スポーツ史特講	24
スポーツ科学特演Ⅰ	25
スポーツ科学特演Ⅱ	26
スポーツ科学特演Ⅲ	27
スポーツ科学特演Ⅳ	28
測定方法演習	29
統計・調査方法演習	30
マルチメディア方法演習	31
健康スポーツ指導方法演習	32
保健体育科指導方法演習Ⅰ	33
保健体育科指導方法演習Ⅱ	34
スポーツ指導実践演習	35
スポーツ事業所実践演習	36
舞踊団実践演習	37
健康運動指導実践演習	38
保健体育科指導実践演習	39

<以下の科目は開講しない>

幼児スポーツ論特講

幼児発達論特講

運動観察法演習

スポーツ科学研究施設実践演習

科目名	スポーツ科学論特講		担当者	渡沼 玲史、高橋 義雄、田中 茂穂 中村 剛、浜岡 隆文、細越 淳二	
英文名	Sport Sciences				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・必修
【授業概要・方法】					
<p>本来的にスポーツ科学は、1つの科学分野というよりは、多くの基礎・基本となる研究領域が統合してその成果を目指すという、極めて学際的な研究分野である。さらに、学術的な研究の成果はもとより、実践的・応用的な側面が強く期待される分野でもある。</p> <p>本講義は、そのようなスポーツ科学研究全般に共通する使命と性格をふまえて、各研究分野の基礎的な理念や理論を基軸に、今日的な課題と方法について討論するものである。授業は今日のスポーツ科学を構成しているさまざまな研究分野から、各領域の代表的な研究者が順次担当する。扱う領域は①スポーツ運動学分野、②スポーツ教育科学分野、③スポーツマネジメント科学分野、④スポーツ健康科学分野、⑤舞踊学分野、⑥スポーツ医科学分野である。</p>					
【授業計画】					
<p>渡沼 担当分 (舞踊学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動の知覚と美的判断 2. 身体運動の知覚の科学 <p>高橋 担当分 (スポーツマネジメント科学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代から現代におけるスポーツの社会的機能 2. 現代社会の変化とそれによって生じる社会課題とスポーツ <p>田中 担当分 (スポーツ健康科学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体活動・総エネルギー消費量の評価方法 2. 身体活動・座位行動と肥満・生活習慣病 <p>中村 担当分 (スポーツ運動学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の運動に関する自然科学的研究の歴史と現象学的発生運動学 (スポーツ運動学) の成立過程について 2. 現象学的運動学の実践的性格について <p>浜岡 担当分 (スポーツ医科学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨格筋エネルギー代謝の基礎 2. ヒト骨格筋エネルギー代謝の評価法 <p>細越 担当分 (スポーツ教育科学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ教育学とは 2. スポーツ教育学分野の研究領域とその課題 					
【到達目標】					
<p>スポーツ科学の基礎的理念と今日の問題を理解する。なお、各授業での到達目標は以下の通りである。</p> <p>渡沼 担当分：舞踊を対象として身体運動の知覚の仕組みとその審美的な判断を理解するとともに、知覚と舞踊動作の分析方法を理解する。</p> <p>高橋 担当分：近代や現代社会の社会学的意味を理解し、その時代におけるスポーツや遊びの機能について理解する。社会課題としての少子高齢化、デジタル化、グローバル化する社会におけるスポーツを理解する。</p> <p>田中 担当分：身体活動や総エネルギー消費量の評価方法を理解した上で、肥満の予防・発症における身体活動の役割を通じて、科学的知見と根拠に基づかない思い込みを整理できるようにする。</p> <p>中村 担当分：自然科学的運動学と現象学的発生運動学 (スポーツ運動学) の理論的背景について理解するとともに、人間の運動に対する現象学的アプローチの独自性と実践性について理解する。スポーツ運動学とスポーツバイオメカニクスの違いについて理解する。</p> <p>浜岡 担当分：運動に重要な骨格筋エネルギー代謝の基礎知識を理解することにより、運動指導の実践、応用に役立てることを目標とする。</p> <p>細越 担当分：スポーツ教育学に関する基礎的知識及びスポーツ教育の動向やその現代的課題を理解することができる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>授業は集中講義で行う。全て出席することが大前提である。</p> <p>具体的な受講上の留意点は、授業時に各担当者から説明される。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>高橋 担当分：講義で解説した社会学的理解を実践的に用いて、普段の日常生活にみられるスポーツ現象を考察する。</p> <p>中村 担当分：講義で解説した発生運動学的な視点を踏まえて、自らのスポーツ実践活動 (練習や指導) について再考し、改善案を提示する。</p> <p>浜岡 担当分：講義で解説した骨格筋エネルギー代謝について、独自の興味に合わせた測定計画を立案する。</p> <p>細越 担当分：講義中に紹介する文献資料を読解しレポートを作成する。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>高橋 担当分：『暇と退屈の倫理学』、『ホモ・ルーデンス 文化のもつ遊びの要素についてのある定義づけの試み』</p> <p>中村 担当分：『運動学講義』『教師のための運動学』『コツとカンの運動学』『基礎から学ぶ運動学』(大修館書店)</p> <p>浜岡 担当分：講義中に紹介する。</p> <p>細越 担当分：講義中に紹介する。</p>					
【成績評価方法】					
<p>6名の担当教員から出された評価の平均値が最終評価となる。</p> <p>各教員の評価方法については、授業時に説明される。</p>					
【関連科目】					

科目名	スポーツ医学特講		担当者	夏井裕明	
英文名	Sport Medicine				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
スポーツ医学研究に必要な医学生理学の知識を深める。					
【授業計画】					
1. オリエンテーション			9. 酸素運搬の生理学：酸素の取り込みと二酸化炭素の排出について		
2. 女性とは何か：5段階の性別について			10. 酸塩基平衡：pHの調節機構について		
3. 性ホルモン：性ホルモンの類似性について			11. 体液：体液区分と水バランスについて		
4. 循環生理学Ⅰ：心臓と血管の生理学について			12. 血液学：血液学の基礎と血液検査値の読み方		
5. 循環生理学Ⅱ：循環力学について			13. 血液型：遺伝学と免疫学の考え方		
6. 心電図の基礎：心電図の原理と臨床的意義について			14. 骨・軟骨の生理学：骨及び軟骨の構造と代謝について		
7. 微小循環とバイオレオロジー：微小循環とバイオレオロジーの基礎			15. 総合討論		
8. 呼吸生理学：呼吸運動と換気力学について					
【到達目標】					
スポーツ医学研究（特に内科系）に必要な医学・生理学的基礎知識を習得し、研究遂行能力を身につける。					
【受講上の留意点】					
学生の積極的な取り組みを期待する。					
※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
【授業時間外学修】					
内科系スポーツ医学の論文を読み、疑問点を洗い出し、授業時間中に解決する。					
【教科書・参考書など】					
教科書：特になし					
参考書：標準生理学（医学書院）					
【成績評価方法】					
授業内で行われる小テスト及び全講義を通したレポート内容で成績を評価する。					
【関連科目】					
スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講					

科目名	スポーツ生理学特講		担当者	星川佳広	
英文名	Sport Physiology				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>スポーツ生理学は、運動に対してからだがどのように応答（response）するか、またそれを繰り返す（＝トレーニング）とからだはどのように変化するか（adaptation）を明らかにする学問であり、近年のスポーツ・ダンスのパフォーマンス向上や健康増進法の進化に大きく貢献している。本講義では、スポーツの実際場面で起こりうるトピック（暑熱環境でのスポーツなど）を取り上げ、その生理学を解説するなかで、からだの仕組み全体（神経・筋系、呼吸・循環系、自律神経・内分泌系、有酸素性・無酸素性エネルギー代謝など）および、その性差や発育発達、トレーニングによる変化についても幅広く講義し、スポーツパフォーマンス向上やトレーニング効果増大につなげる。</p>					
【授業計画】					
1. イントロダクション	スポーツ生理学の概要		9. 高所順化、高所（低酸素）トレーニング		
2. トピック①	暑熱環境でのスポーツ		10. 自律神経系、内分泌系、免疫系の応答		
3. 運動と体温調節、発汗機能、ウォーミングアップ			11. トピック③ 高強度インターバルトレーニング		
4. 水分補給、暑熱順化法、クーリング法			12. エネルギー供給機構（無酸素性、有酸素性エネルギー代謝）		
5. 水中の生理、リカバリー			13. 運動と糖質、脂質代謝		
6. 女性特有の事項（月経周期、サーカディアンリズムなど）			14. 最大運動の制限因子、疲労の生理学		
7. トピック②	低酸素環境でのスポーツ		15. トピック④ その他、ストレッチ・サイクルと神経・筋系など		
8. 低酸素環境への生理応答					
【到達目標】					
<p>スポーツ生理学の基礎的知識とその応用事例を自らの言葉で説明できるとともに、発表を通し、</p> <p>(1) 図表データを読解できる。</p> <p>(2) 紹介文献について生理学的に分かりやすく説明できる。</p> <p>(3) 他の人の発表に適切に質問・コメントでき、他の人からの質問・意見を踏まえて課題を明確にできる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>トピックや文献は、スポーツ・ダンスや健康指導の現場において活用・注目されている身近な話題を取り上げる。生理学の専門知識というよりは、スポーツ・ダンス、健康の指導者として、からだの仕組みについてより理解を深める機会と捉えてほしい。また、受講生のこれまでのさまざまな経験や経験の中での疑問、専門性の違いが生理学的理解を深めるので、自身を振り返りながら積極的に発言、議論してほしい。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
授業時間に配布されるトピックに関連する資料・文献について、担当者はレジメを作成し、発表の準備をする。					
【教科書・参考書など】					
<p>必要な資料を配布する。</p> <p>参考図書は、健康運動指導士養成講習会テキスト、NSCA決定版ストレンクス&コンディショニング第4版、体育の科学（杏林書院）、トレーニング科学（日本トレーニング科学会）等である。</p>					
【成績評価方法】					
授業内の質疑50%およびトピックに関するプレゼンテーション、レポート50%により評価する。					
【関連科目】					
体力とスキルのトレーニング科学特講、測定方法演習、スポーツ医学特講、スポーツ栄養学特講					

科目名	体力とスキルのトレーニング科学特講		担当者	星川佳広	
英文名	Theory for fitness training and skill development				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>スポーツ、ダンスのパフォーマンスは、大きく分けて体力とスキル(技術)に規定される。本講義では、それらを高めるより合目的なトレーニング法とその背景にあるからだの解剖学的、生理学的仕組みについて学ぶ。トレーナビリティは年齢、性別等で異なり、またトレーニングは競技特異性に基づくべきである。したがって、対象者の属性と競技特性をよく理解してトレーニングを考えられるようになることが目標である。授業は講義とともに詳説・レビュー文献を読み込み、当該分野の最新知見および未知の点を整理する。発展的に、自身の研究課題に活かせるよう受講生各位の興味によって分野を調整したり、文献内のトレーニングを実際に行い議論することもある。</p>					
【授業計画】					
<p>1. オリエンテーション- エビデンスに基づくトレーニング、パフォーマンスを規定する因子とトレーナビリティ</p> <p>2. 成長期の体力、スキルの発達とトレーニング①</p> <p>3. 成長期の体力、スキルの発達とトレーニング②</p> <p>4. 成長期の体力、スキルの発達とトレーニング③</p> <p>5. トレーニング効果の性差と女性特有の事項①</p> <p>6. トレーニング効果の性差と女性特有の事項②</p> <p>7. トレーニング効果の性差と女性特有の事項③</p> <p>8. 無酸素性競技、有酸素性競技の体力、スキルとトレーニング①</p> <p>9. 無酸素性競技、有酸素性競技の体力、スキルとトレーニング②</p> <p>10. 無酸素性競技、有酸素性競技の体力、スキルとトレーニング③</p> <p>11. 審美系競技・ダンスの体力、スキルとトレーニング①</p> <p>12. 審美系競技・ダンスの体力、スキルとトレーニング②</p> <p>13. 審美系競技・ダンスの体力、スキルとトレーニング③</p> <p>14. その他の競技の体力、スキルとトレーニング①-球技</p> <p>15. その他の競技の体力、スキルとトレーニング②-コンバットスポーツ</p>					
【到達目標】					
<p>スポーツ、ダンスのパフォーマンスを規定する各要因とそのトレーニング法についてエビデンスに基づき科学的に理解できる。そのことを通し、個人や選手のニーズ、年齢、性別、各競技特性に合わせて、課題克服のためにより適切なトレーニングを実践、開発できるようになる。特に女性特有の事項に精通し、トレーニングを実践、開発できるようになることを目標とする。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>事前に関連文献を読み込み、疑問点を整理してから授業に参加することで理解が深まる</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>紹介する関連文献の読み込みおよびレジュメの準備</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>資料を配布する</p>					
【成績評価方法】					
<p>授業内の質疑50%およびプレゼンテーション、レポート50%により評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ生理学特講、スポーツバイオメカニクス特講、測定方法演習</p>					

科目名	スポーツバイオメカニクス特講		担当者	湯田 淳	
英文名	Sport Biomechanics				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>力学の基礎的理論やバイオメカニクスの分析法について実例を交えながら学習し、スポーツバイオメカニクスを自己のスポーツ実践や他者へのスポーツ指導に活用するための能力を養成することを目的とする。また、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上の要因をバイオメカニクスの観点から検討することによって、競技現場に果たすスポーツ科学の役割について考える。</p>					
【授業計画】					
1. スポーツバイオメカニクス概論1 ～スポーツバイオメカニクスとは～			9. スポーツバイオメカニクス研究法1	～データ収集法～	
2. スポーツバイオメカニクス概論2 ～スポーツバイオメカニクスの接近方法～			10. スポーツバイオメカニクス研究法2	～キネマティクスの分析～	
3. スポーツバイオメカニクスの活用法			11. スポーツバイオメカニクス研究法3	～キネティクスの分析～	
4. 力学の基礎1 ～運動と力～			12. データ収集・分析法1	～ビデオ撮影の実際～	
5. 力学の基礎2 ～並進運動～			13. データ収集・分析法2	～座標算出の実際～	
6. 力学の基礎3 ～回転運動～			14. データ収集・分析法3	～キネマティクスの分析の実際～	
7. 身体構造と力学的運動要因			15. 総合討論		
8. 上肢、下肢、体幹の運動					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツバイオメカニクスの学問的意義を理解し、身体運動の分析へのバイオメカニクスのアプローチを把握する。 ・映像を用いた動作改善法について理解し、バイオメカニクスがスポーツ現場でどのように活用されているかを把握する。 ・運動の力学および身体の構造に関する基礎的事項を理解し、スポーツバイオメカニクスのより良い理解のために活用できる。 ・スポーツバイオメカニクスにおける研究手法およびその理論的背景を理解し、その特徴を把握する。 					
【受講上の留意点】					
<p>授業はパワーポイントを用いて進められ、毎回の授業において内容に関する資料が配布される。受講者は講義内容における必要な箇所を素早く資料に書き取り、自分用のスポーツバイオメカニクスノートとしてまとめあげる努力が求められる。また、ほぼ毎回、その回の講義内容に関する小課題を実施する。受講者はただ単にノートをとるだけではなく、講義内容についての理解も求められる。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>様々なスポーツにおけるバイオメカニクスのデータの活用事例について、概要を把握する。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。 「スポーツバイオメカニクス20講」 阿江通良・藤井範久・著（朝倉書店） 「スポーツバイオメカニクス」 深代千之・桜井伸二・平野裕一・阿江通良・著（朝倉書店）</p>					
【成績評価方法】					
<p>小課題を40%、期末レポートを60%の割合として評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ技術論特講、スポーツコーチング論特講</p>					

科目名	スポーツ外傷リハビリテーション特講		担当者	永野 康 治	
英文名	Orthopedic Rehabilitation				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>スポーツ外傷・障害はスポーツ選手にとってパフォーマンスを低下させ、競技生活を阻害する大きな要因の1つである。外傷・障害の受傷後の適切なリハビリテーションによって、より早期にパフォーマンスを低下させることなく復帰させることが可能であるが、外傷・障害の受傷機転、危険因子を理解することで予防することが最も望ましい。近年のスポーツ医学の目的も予防に重点が置かれている。そこで、本講義ではスポーツ外傷・障害の予防に関する知見を整理し、その知識を学習していく。本講義の目的は、各種スポーツ外傷・障害の受傷機転、危険因子、予防法について理解し、実践できるようになることである。本講義のねらいは、スポーツ現場においてスポーツ外傷・障害の予防法を実践でき、対象者に指導ができるようになること。さらに自身の関連の深いスポーツ外傷・障害の予防法を提案できることである。</p>					
【授業計画】					
1. スポーツ外傷・障害予防の概論 スポーツ外傷・障害予防に対する体系的アプローチ			9. ハムストリングス損傷の予防 ①疫学およびリスクファクター		
2. スポーツ外傷・障害の重大性 ①情報の収集			10. ハムストリングス損傷の予防 ②メカニズムおよび予防法		
3. スポーツ外傷・障害の重大性 ②各競技の特性(1)			11. 腰痛の予防 ①疫学およびリスクファクター		
4. スポーツ外傷・障害の重大性 ②各競技の特性(2)			12. 腰痛の予防 ②メカニズムおよび予防法		
5. 膝外傷の予防 ①疫学およびリスクファクター			13. 頭頸部外傷の予防		
6. 膝外傷の予防 ②メカニズムおよび予防法			14. 各種スポーツ外傷・障害の予防 予防法の実践		
7. 足関節損傷の予防 ①疫学およびリスクファクター			15. チーム内での外傷予防計画の開発と管理		
8. 足関節損傷の予防 ②メカニズムおよび予防法					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・各スポーツ外傷、障害の解剖学的特徴を踏まえて受傷機転を説明できる。 ・各スポーツ外傷、障害の危険因子を説明できる。 ・各スポーツ外傷、障害の予防法を説明、実践できる。 ・スポーツ外傷、障害の予防法を提案できる。 					
【受講上の留意点】					
<p>参考書の該当部分を履修者がまとめてプレゼンテーションを行う。 外傷・障害の予防法の実践は実技・実演を交えながら行うので、動きやすい格好で出席すること。</p>					
※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
【授業時間外学修】					
<p>外傷・障害に関する文献、参考書から情報収集し、授業内容に加え最新の知見をまとめる。 自身のスポーツ活動やチームでの活動に学修した内容を取り入れる。</p>					
【教科書・参考書など】					
参考書：スポーツ外傷・障害ハンドブック(医学書院)					
【成績評価方法】					
レポート60%、授業内での発表40%					
【関連科目】					

科目名	スポーツコーチング論特講		担当者	吉田孝久	
英文名	Coaching Theory in Sports				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>競技スポーツのコーチングのねらいは、その競技力を十分に向上させ、その最適ないし最高の成果をあげさせることにあり。そのために、基本的にその競技の構造的認識、競技力向上のプログラミング、効果的運動指導法、達成力のチェック法の4点に要約される。本講義は、その4点について各スポーツに共通する基本的認識を提供し、それを基として各個別スポーツの競技力向上に活かすための問題性を浮き彫りにして、コーチング活動の実践に資することをねらいとする。</p>					
【授業計画】					
1. コーチングとトレーニングについて		9. 運動指導の方法論と補助手段 1			
2. 競技スポーツのコーチングのねらい		10. 運動指導の方法論と補助手段 2			
3. スポーツコーチングの機能と構造		11. 運動修正の方法論 1			
4. スポーツコーチングの体系		12. 運動修正の方法論 2			
5. 競技力の構成要素について		13. トレーニング計画 1			
6. 動きを身につけることについて 1		14. トレーニング計画 2			
7. 動きを身につけることについて 2		15. コーチングにおける問題点			
8. 動きを身につけることについて 3					
【到達目標】					
<p>競技スポーツにおいて、選手が成果を上げるためには選手とコーチの協同による活動が有用であることを理解する。選手はトレーニングによって競技力の向上を図ろうとするが、一度や二度できたからといってそれが技能として身につけているわけではなく、状況が変われば動きの習熟度も変化することを理解する。このことを理解した上で、コーチングに関する多角的なアプローチを試みる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>この講義内容を理解する上では、自分自身のスポーツ・ダンス活動経験を基に、指導者との対話、計画的トレーニング実践の重要性、動きの学習と習熟過程等について自分自身のトレーニング・コーチングを評価することが有用である。スポーツ・ダンス活動の経験が乏しい場合でも、自身の運動学習の経験を振り返ることによって理解を深めることが可能である。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>授業でおこなった該当箇所について各自で情報収集を行い、教科書・参考書を精読することで内容の理解を深める。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>教師のための運動学、運動学講義、競技力向上のトレーニング戦略、スポーツ運動学（金子著）、スポーツ運動学（マイネル著・金子訳）</p>					
【成績評価方法】					
<p>授業時提示の課題（2～4回）をもとに評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ技術論特講、スポーツ運動発生論特講</p>					

科目名	スポーツ戦術論特講		担当者	柴田雅貴	
英文名	Tactics in Sports				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>競技スポーツの現場で用いられている戦術理論について解説するとともに、勝利を目指した戦い方の実践事例を通して、スポーツにおける戦術力の構造について解説し、戦術的行動の意義とその重要性について理解させる。個人戦術・グループ戦術・チーム戦術に関する具体的事例を用いた例証分析を通して、これらの違いとその関連性について、また戦術構想・戦術行動・戦術トレーニングについて理解を深めさせる。</p>					
【授業計画】					
1. ガイダンス		9. 個人戦術力の構造（テニス）			
2. 戦術的な考え方の重要性		10. 個人戦術力の構造（マラソン）			
3. 戦術とは何か（外延構造と内包構造）		11. グループ戦術の構造（バレーボール）			
4. クラウゼヴィッツの戦争論		12. チーム戦術の構造（サッカー）			
5. 孫子の兵法		13. 球技の試合における戦術の見方			
6. 戦略・戦術の前提となる情報収集の重要性		14. 球技の試合における監督の役割			
7. 理論としての戦術と能力としての戦術力		15. スポーツ戦術論に関するまとめ			
8. 個人戦術力の構造（剣道・ボクシング）					
【到達目標】					
<p>種目を横断する一般的な戦術理論と戦術力の違いについて理解できるようになる。個人戦術とグループ戦術、チーム戦術の違いについて理解し、使い分けることができる。戦術的思考をトレーニングやコーチングに活かすことができるようになる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>戦術理論や戦術的行動、戦術力の理解にあたっては、種目特性が著しく異なるため、常にそれらを念頭におき自分が専門とするスポーツ種目等と関連付けて理解するように努める。</p> <p>※ハイフレックス対応型院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<p>講義で学んだ戦術理論を自身のトレーニングやコーチングで実践し、その効果について検証する。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>特定の教科書は使用しない。「スポーツの戦術入門」（大修館書店）を参考書として使用する。また、必要に応じて資料を配付する。</p>					
【成績評価方法】					
<p>授業内でのプレゼンテーションおよびディスカッション・質疑の内容を60%、最終レポートの達成度を40%として評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ技術論特講、スポーツ運動発生論特講</p>					

科目名	スポーツ技術論特講		担当者	森井大樹	
英文名	Sport Technique				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>運動技能を構成する中核的因子である技術を、戦術・体力と関連させながら概観する。そして、運動が「できる」ことは、技術（コツ）を身につけることであり、コツの発生にはいくつかの階層（形成位相）があることや動きを「覚える人」と「教える人」にはそれぞれ「身体知」が必要であることを理解する。パワーポイントや必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。</p>					
【授業計画】					
1. スポーツ技術の変遷			9. 創発身体知（洗練化身体知）と技術		
2. スポーツ技術の概念			10. 創発達成能力と創発分析能力		
3. スポーツ種目と競技力の構造			11. 促発身体知（観察能力）と技術		
4. 身体知と技術			12. 促発身体知（交信能力）と技術		
5. 動きの形成位相と技術①			13. 促発身体知（代行能力）と技術		
6. 動きの形成位相と技術②			14. 促発身体知（処方能力）と技術		
7. 創発身体知（始原身体知）と技術			15. 技術の伝承		
8. 創発身体知（形態化身体知）と技術					
【到達目標】					
<p>スポーツ技術概念や史の変遷からその必要性を理解する。また、技術の底流となる「動感身体知」の存在を確認でき、その具体的例証から、技術の伝承に関する考え方を理解する。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>本講義を理解するためには、講義内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>発生運動学を基にしたこの授業は、大学で学んだ運動学に関する基礎知識が必要である。運動学の用語や知識について常に「自分の言葉」で説明できるよう準備しておかなければならない。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>適宜、資料を配布する。教科書の指定については授業内で周知する。</p> <p><参考文献> 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店） 「わぎの伝承」金子明友（明和出版） 「身体知の形成 上・下」金子明友（明和出版） 等</p>					
【成績評価方法】					
<p>毎回の授業での理解度（小レポート）70%、最終レポートの達成度30%</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ科学特演Ⅰ、スポーツ科学特演Ⅱ、スポーツ科学特演Ⅲ、スポーツ科学特演Ⅳ スポーツ運動発生論特講</p>					

科目名	ライフステージと健康科学論特講		担当者	沢井史穂	
英文名	Health Science at Each Life Stage				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>人の健康に関わる問題はライフステージによって大きく異なる。乳幼児期から老年期に至るまで、一生を通じて人の身体や精神状態は変化していくが、その過程は単なる生物学的な経年変化だけではなく、その人の置かれた生活環境（時代、地域、経済、教育など）によって大きな影響を受ける。本特講では、各年齢層における心身の状態の特徴や置かれている社会的環境の違いを把握し、その時期における健康上の主な問題や課題、健康寿命の延伸につながる生活習慣などについて、文献を紹介しながら考察を行う。授業は受講生によるプレゼンテーションと討論を中心に進めていく。</p>					
【授業計画】					
1. オリエンテーション、意見交換			9. 老年期の健康づくりに関わる討論		
2. ライフステージに応じた健康と運動の捉え方			10. 女性の健康づくりに関わる討論		
3. 昨今の健康問題のトピックス①			11. 幼小児期の健康づくりに関わる文献抄読		
4. 昨今の健康問題のトピックス②			12. 青少年期の健康づくりに関わる文献抄読		
5. 昨今の健康問題のトピックス③			13. 成人期の健康づくりに関わる文献抄読		
6. 幼小児期の健康づくりに関わる討論			14. 老年期の健康づくりに関わる文献抄読		
7. 青少年期の健康づくりに関わる討論			15. 女性の健康づくりに関わる文献抄読		
8. 成人期の健康づくりに関わる討論					
【到達目標】					
<p>現代の各年齢層の主要な健康問題・課題は何かを、その身体的、精神的、社会的背景を理解したうえで見きわめ、その対応策を考えられるようになる。さらに、健康づくりに運動やスポーツが果たす役割について、科学的根拠を持って考察できるようになる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>毎回の授業は受講生によるプレゼンテーションや討論を交えて進めていく。提示された資料等を元に、自分の考えや意見を積極的に述べ、議論をすることで、各回のテーマに関して全員が理解や考察を深めていくことを目指すので、意欲的・主体的に参加すること。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>子どもから高齢者に及ぶさまざまな年齢層の健康問題についての情報を様々なメディアを通じて収集・精査し、自分の興味に照らし合わせて文献を紹介したり、与えられたテーマに対して意見を述べるができる素地を養う。</p>					
【教科書・参考書など】					
とくには指定しない。随時資料を配布する。					
【成績評価方法】					
授業への取り組み姿勢（ディスカッション能力含む）30%、課題のレポート50%、プレゼンテーション能力20%					
【関連科目】					
スポーツ科学特演Ⅰ,Ⅱ					

科目名	スポーツ栄養学特講		担当者	古泉佳代	
英文名	Sports Nutrition				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>本授業は、スポーツ栄養学の基礎知識を踏まえ、対象者や目的に応じた実践的な栄養支援・食育の方法を学ぶことを目的とする。受講者自身の食事調査を行い、食生活上の課題を客観的に把握する。授業では、野菜不足の解消、味覚を活かした減塩、補食によるエネルギー補給、盛り付けの工夫といった具体的テーマを扱う。各テーマについては、事前に講義を行った上で調理実習を実施し、理論と実践の統合を図る。さらに、時間栄養学の視点を取り入れ、食事のタイミングを含めた栄養支援の考え方を学ぶ。実習後には振り返りと討論を行い、理解の深化を図る。最終的には、調査結果および実習内容を踏まえ、対象者に応じた食事改善・食育プログラムを立案・発表する。</p>					
【授業計画】					
1. オリエンテーション 授業の目的・到達目標・評価方法の説明／スポーツ栄養学の全体像		9. (実習②) 味覚・減塩を意識した調理実習 減塩でも満足感の高い調理・味付けの工夫した調理をする			
2. スポーツ栄養学の基礎①：エネルギー代謝 エネルギー消費量、エネルギー摂取量について理解する		10. (講義) 補食によるエネルギー補給と時間栄養学 トレーニング前後・間食の役割、タイミングと内容			
3. スポーツ栄養学の基礎②：三大栄養素と運動 糖質、脂質、たんぱく質と競技特性について理解する		11. (実習③) 補食・リカバリー食の調理実習 競技・練習スケジュールを想定した補食を調理する			
4. 食事調査法：理論と実施 秤量法、食物摂取頻度調査法の食事調査方法を実践し、理解する		12. (講義) 盛り付け・視覚要因と食行動 盛り付け、彩り、量感の工夫が摂取量・満足感に与える影響			
5. 食事調査データの解析 食事調査結果から、野菜摂取量、不足栄養素、食行動の特徴を整理する		13. (実習④) 盛り付けを工夫する調理実習 同一献立で盛り付けを変え、見た目と摂取意欲の違いを体験する			
6. (講義) 野菜不足解消のための栄養戦略 野菜摂取の意義、簡便な摂取方法、外食・間食時の工夫を理解する		14. 発表：食事調査結果と調理実習を踏まえた改善提案 野菜摂取量向上・味覚・補食・盛り付けを含む介入案の提示			
7. (実習①) 野菜摂取量をも高める調理実習 かさ増し・下処理・作り置き・簡便メニューを実践する		15. 総合討論・まとめ 授業全体の振り返り、実践への応用			
8. (講義) 味覚と減塩：おいしさを保つ工夫 味覚の仕組み、うま味・香り・食感を活かした減塩を理解して満足感のある食事について理解する					
【到達目標】					
<p>スポーツ栄養学の基礎知識を理解し、様々な対象者および目的に応じた食育を実践できる能力を身につける。 ①食事調査方法を理解し、対象者や目的に応じて適切に活用することができる。 ②ダンスおよび各種スポーツにおける競技力向上のための食事のポイントについて、わかりやすく説明することができる。 ③健康的な生活の実現に向けた食事のポイントについて、わかりやすく説明することができる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>調理実習および発表・討論では、主体的に参加し、他者の意見を尊重ながら討論をおこなうこと。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
紹介する文献を読んで、資料を準備する。					
【教科書・参考書など】					
食品成分表や生理学の教科書を必要に応じて利用する。					
【成績評価方法】					
授業内の質疑(75%)、及びプレゼンテーション(25%)の内容で評価する。					
【関連科目】					
スポーツ生理学特講、スポーツ医学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講					

科目名	スポーツ心理学特講		担当者	澁倉 崇行	
英文名	Sport Psychology				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>本講義では、スポーツ心理学における研究知見を深く理解するとともに、科学的な研究を遂行するための基礎的な技法を修得する。スポーツ、ダンス、健康、発育発達各領域における国内外の研究動向を概観し、研究課題の抽出とデザイン構築の能力を養う。また、心理尺度の開発プロセスを理論と実践の両面から学び、統計的解析手法を用いたデータの解釈方法を修得する。講義に加え、実習や討論を通じて論理的思考力と実践的な研究遂行能力を高める。</p>					
【授業計画】					
1. スポーツ心理学概説			9. 心理尺度作成の実際(2)：構成概念の検討と項目収集		
2. スポーツ心理学研究の基礎(1)：研究論文の構成			10. 心理尺度作成の実際(3)：質問紙の作成		
3. スポーツ心理学研究の基礎(2)：研究デザイン			11. 心理尺度作成の実際(4)：データ収集		
4. 国内外の研究動向(1)：スポーツ科学領域			12. 心理尺度作成の実際(5)：データ入力		
5. 国内外の研究動向(2)：ダンス領域			13. 心理尺度作成の実際(6)：因子分析と信頼性・妥当性の検討		
6. 国内外の研究動向(3)：健康スポーツ領域			14. スポーツ心理学研究の方法(1)：平均の比較		
7. 国内外の研究動向(4)：子ども運動領域			15. スポーツ心理学研究の方法(2)：関係性・因果関係の検討		
8. 心理尺度作成の実際(1)：心理尺度作成の方法					
【到達目標】					
<p>(1) スポーツ心理学における国内外の研究動向を俯瞰し、各領域の最新の課題を説明できる。 (2) 研究論文の構成と適切な研究デザインを理解し、目的と整合性の取れた手法を説明できる。 (3) 心理尺度の作成手順を理解し、因子の検討から信頼性・妥当性の検証方法まで説明できる。 (4) 収集したデータに対し、目的に応じた適切な統計解析手法を選択し、その結果を説明できる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>本特講では、学部において学修したスポーツ心理学の基礎的内容を、いくつかの検討課題に焦点を絞り、さらに詳細に検討する。したがって、受講者はスポーツ心理学並びに心理学の基本的事項を理解しておく必要がある。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>各時間に次週のトピックについて予告するので、関連する心理学的検討課題の予習を行う必要がある。また、各時間に取り上げた検討課題に対する理解をさらに深めるための復習が必須である。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>各時間の内容に関わる研究事例、背景となる理論等についての資料を配布する。教科書は特に指定しないが、以下は参考図書として理解を深めるために利用することを勧める。日本スポーツ心理学会編・最新スポーツ心理学その軌跡と展望（大修館書店）、日本スポーツ心理学会編・スポーツ心理学の挑戦（大修館書店）、西田保編・スポーツモチベーション（大修館書店）、佐々木万丈著・基礎から学ぶスポーツの心理学（勁草書房）</p>					
【成績評価方法】					
<p>到達目標の観点から試験60%、レポート40%により総合的に評価する。なお、受講態度に問題があると判断される行為については、2点から10点までの範囲で減点を行う。</p>					
【関連科目】					
<p>体育・スポーツ教育論特講、統計・調査方法演習</p>					

科目名	スポーツマーケティング特講		担当者	上林 功	
英文名	Sport Marketing				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>本講義では、スポーツを単なる競技としてではなく、社会に広く価値を提供するマーケティング・メディアとしてプロダクトやサービスとして捉えていくことができるようになる為の基本的知識や理論を習得することを目的とする。具体的には、スポーツをビジネス化するために求められる「スポーツマーケティング (Marketing of sport)」について、その体系を事例を挙げて明らかにし、スポーツ消費者のニーズを満たすスポーツ・プロダクトを効果的に提供するための戦略や関連する諸概念・知識を中心に学ぶ。</p>					
【授業計画】					
1. ガイダンス、スポーツ産業とマーケティング		9. マーケティング3.0 : 共創によるスポーツコミュニティ			
2. スポーツ産業における伝統的3領域と今日的拡張		10. マーケティング4.0 : アドボカシーとファンリレーション			
3. スポーツ用品産業		11. マーケティング5.0 : デジタルマーケティング			
4. スポーツサービス情報産業		12. スポーツによるソーシャルマーケティング			
5. スポーツ施設空間産業		13. スポーツを通じたDE&Iとマーケティング			
6. スポーツにおけるマーケティング志向		14. 学修度確認テスト			
7. マーケティング1.0 : 4P, 4C分析で見るスポーツビジネス		15. 学修度確認テストフィードバック、まとめ			
8. マーケティング2.0 : STP分析で見るスポーツカスタマー					
【到達目標】					
<p>基本的なマーケティング戦略の諸理論とその仕組みについて体系的に理解することで、スポーツ消費者のニーズを満たすスポーツ・プロダクトを効果的に提供するための実践的な知識を習得する。そして、スポーツビジネスにおける今日的課題の発見と解決策についてマーケティングの視点から提言ができるようになることが本講義の到達目標である。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>積極的な参加と自主的な事前・事後学習を心掛けること。講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めること。さらに、講義内で紹介する文献（書籍、論文）については、自主的に取り寄せ、精読すること。また、講義内でマーケティング事例 (Case) に基づくディスカッションも計画しており、関連資料やテキストのリーディングアサインメントやレポート等の課題も課す予定である。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>関連資料やテキストのリーディングアサインメント、課題レポートを課す。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>教科書ならびに参考文献や資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。</p>					
【成績評価方法】					
<p>課題レポートとディスカッションを50%、最終レポートの結果を50%として総合的に判断する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ組織論特講</p>					

科目名	スポーツ政策論特講		担当者	溝口紀子	
英文名	Sport Social Policy and Administration				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
日本のスポーツ政策の基軸である「スポーツ基本法」、さらにUNESCOが採択した「体育およびスポーツに関する国際憲章」を理解するとともに、スポーツ政策の先行研究から社会調査の方法を学ぶ。また現在におけるスポーツ、教育、都市計画、経済、医療・福祉、環境など、様々な視点から、定量的調査の文献購読により理解を深め、質的研究の方法を学びながら今後のスポーツ政策の在り方を議論する。					
【授業計画】					
1. ガイダンス	スポーツ政策と公共性		9. スポーツ指導者資格制度と質的研究		
2. スポーツ政策の歴史			10. スポーツ事故と質的研究		
3. スポーツ政策の形成（行政組織や政策形成過程）			11. 諸外国のスポーツ政策（フランス）と質的研究		
4. スポーツ基本計画について			12. スポーツ施設と質的研究		
5. スポーツ政策と質的研究			13. メディアスポーツと質的研究		
6. 学校体育政策と質的研究			14. スポーツ政策プレゼンテーション（学生による）		
7. 地域のスポーツ政策と質的研究			15. スポーツ政策プレゼンテーション（学生による）		
8. 大学スポーツと質的研究					
【到達目標】					
スポーツが社会的価値のある公共性を有するものであることを理解し、社会調査の方法を理解し、社会問題の解決策、スポーツ政策の企画立案ができる。					
【受講上の留意点】					
原則として授業内に学生からスポーツ政策についてのプレゼンテーションを一人一回行う。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
【授業時間外学修】					
スポーツ政策に関する記事（日本語だけでなく英語・フランス語）をまとめる。					
【教科書・参考書など】					
よくわかるスポーツマネジメント（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）ミネルヴァ書房, 車学者のための質的研究、よくわかる質的社会調査技法編。授業毎に参考資料を配布します。					
【成績評価方法】					
プレゼンテーションの内容50%、授業内での発言やレポート50%から判断する。					
【関連科目】					
スポーツ科学論特講					

科目名	スポーツ組織論特講		担当者	上 林 功	
英文名	Sport Organization				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
あらゆる組織体は、その目標の達成、組織内システムの維持および外部環境への適応に努力を重ねている。本講義では、組織論や組織行動論の視覚からマネジメントに必要な「人間」と「組織」に関する基礎的な考え方や理論を学習し、人間をマネジメントするときに発生する問題の構造を理解する。さらに、様々な組織事例の理論的検討を通じてスポーツ組織の新たなマネジメントの在り方について検討する。					
【授業計画】					
1. 組織論とは何か			9. スポーツ社会学にみる組織論		
2. 個人の行動の基礎			10. 組織構造の基礎		
3. モチベーション理論の展開			11. 組織文化		
4. 意思決定			12. 人材管理の考え方と方法		
5. 集団行動とマスギャザリング			13. 組織変革と組織開発		
6. コミュニケーションの機能とプロセス			14. 学修度確認テスト		
7. リーダーシップと信頼の構築			15. 学修度確認テストフィードバック、まとめ		
8. スポーツ社会学にみる権力論					
【到達目標】					
社会学、産業社会学の系譜を踏まえ、組織論や組織行動論の視覚からマネジメントに必要な「人間」と「組織」に関する基礎理論を理解し、組織における問題を分析し解決するための実践的な知識と考え方を習得する。そして、様々な組織体における今日的課題の発見と解決策の提言ができるようになることが本講義の到達目標である。					
【受講上の留意点】					
積極的な参加と自主的な事前・事後学習を心掛けること。講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めること。さらに、講義内で紹介する文献（書籍、論文）については、自主的に取り寄せ、精読すること。関連資料やテキストのリーディングアサインメントやレポート等の課題については都度講義内で指示をおこなう。					
※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
【授業時間外学修】					
関連資料やテキストのリーディングアサインメント、課題レポートを課す。					
【教科書・参考書など】					
教科書、参考文献や資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。					
【成績評価方法】					
課題レポートとディスカッションを50%、最終レポートの結果を50%として総合的に判断する。					
【関連科目】					
スポーツマーケティング特講					

科目名	体育・スポーツ教育論特講		担当者	須甲理生	
英文名	Sport and Physical Education				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>本講義では、我が国や諸外国の学校体育をめぐる現状と体育科教育学の学問体系について概説し、各論として体育科の目標論、教育課程論、教材づくり論、学習指導論、評価論に焦点を当て講義を展開していく。また、文献講読並びに実際の授業分析を通して、学習成果を高めるための体育授業の学習指導並びにその研究方法論についての理解を深めていく。さらに、授業分析の結果についてディスカッションをしていくことによって、授業設計や省察についての理解を深めていく。なお、本講義では、体育授業のVTRによる具体的な授業事例を視聴しながら講義を進めていく。</p>					
【授業計画】					
1. 学校体育をめぐる諸問題と現状			9. 授業研究①：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、授業の勢いと雰囲気に関心を当てる。		
2. 体育の目標論：体育目標の変遷と体育概念の変化			10. 授業研究②：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、教師行動に関心を当てる。		
3. 体育の教育課程論：学習指導要領の内容と性格			11. 授業研究③：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、学習者行動に関心を当てる。		
4. 体育の教材づくり論：教材づくりの基本的視点と方法			12. 授業研究④：体育授業の分析結果の解釈とグループディスカッション		
5. 体育の学習指導論：指導スタイルと学習指導モデル			13. 授業研究⑤：体育授業の分析結果の解釈とグループディスカッション		
6. 体育の評価論			14. 体育授業研究及び体育教師教育研究の動向		
7. 体育の授業分析法①：授業場面期間記録法による授業の勢いの分析と結果の解釈の仕方			15. 総括：学習成果を高める体育授業の特徴と体育教師の学習指導		
8. 体育の授業分析法②：相互作用行動観察法による授業中の教師行動の分析と結果の活用方法					
【到達目標】					
<p>体育科教育学における各領域の研究動向を概観しながら、学習成果を高めるための体育授業の基礎的条件や内容的条件についての理解を深める。また、体育授業を分析していくための研究方法論についての理解を深める。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>自身が受けてきた体育授業や教育実習等で実践してきた体育授業のイメージを想起しながら受講すること。グループワークやディスカッションの際は、積極的な取り組みが求められる。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>毎回の授業時に配布する論文を読んで予習・復習しておく。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。</p> <p>〈参考書〉 高橋健夫ほか編（2010）「新版体育科教育学入門」大修館書店 高橋健夫編（2003）「体育授業を観察評価する：授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」明和出版</p>					
【成績評価方法】					
<p>授業時の提出物を40%、最終レポートを60%として評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ科学論特講、スポーツ科学特演Ⅰ～Ⅳ</p>					

科目名	スポーツ運動発生論特講		担当者	中村 剛	
英文名	Genetic movement theory in sport				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>体育・スポーツの運動指導場面で主題化される運動発生という現象を取り扱う運動発生論について解説する。まず運動発生論がどのような理論かを概説し、運動が発生するとはどのようなことかについて詳述する。また運動が〈できない〉状態から〈一応できる〉状態を経て、〈いつでもうまくできる〉状態へと至る運動の発生過程の位相性について解説するとともに、各位相における指導上の留意点を解説する。さらに学習者に運動の発生を促す上で、指導者に求められる運動の促発能力である観察能力や交信能力、代行能力について概説する。</p>					
【授業計画】					
1. 運動発生論への誘い			9. 運動の形成位相論⑥ (コツをつかむ段階の指導上の留意点)		
2. 運動が発生するとはどういうことか① (即興としての運動発生と身体知)			10. 運動の形成位相論⑦ (わざ幅を身につける段階の特徴と指導上の留意点)		
3. 運動が発生するとはどういうことか② (動感図式の能動的形成化の重要性)			11. 運動の形成位相論⑧ (自由自在に動ける段階の特徴と指導上の留意点)		
4. 運動の形成位相論① (形成位相とは何か)			12. 運動の観察能力① (自己観察能力)		
5. 運動の形成位相論② (運動になじむ段階の特徴と指導上の留意点)			13. 運動の観察能力② (他者観察能力と交信能力)		
6. 運動の形成位相論③ (動きかたを探索する段階の特徴と指導上の留意点)			14. 運動の観察能力③ (運動観察能力と代行能力)		
7. 運動の形成位相論④ (よくわからないけどできる段階の特徴と指導上の留意点)			15. 運動発生論を指導実践に活かすために (総括)		
8. 運動の形成位相論⑤ (コツをつかむ段階の特徴)					
【到達目標】					
<p>体育・スポーツにおける運動発生の本質の特徴と運動の形成位相および各位相における指導上の留意点について理解する。また学習者の運動発生を促す上で指導者に求められる観察能力や交信能力、代行能力について理解する。加えて、運動発生論が精密自然科学とは異なる現象学的人間学を基礎づけとしていることを理解する。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>授業への積極的な参加を望んでいる。厳密な現象学的人間学的な理論に関する授業なので、授業時間外での予習、復習は必須である。また、実際の指導現場との関係を考慮しながら授業を聴講する姿勢が必要である。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>教科書・参考書などの関連箇所を通読するとともに、授業内で配布した資料を用いて授業内容の復習を行う。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>マイネル：金子明友訳（1981）マイネルスポーツ運動学．大修館書店。 金子明友監修（1996）教師のための運動学．大修館書店。 金子明友（2002）わざの伝承．大修館書店。 日本スポーツ運動学会（2020）コツとカンの運動学．大修館書店。 佐野淳（2023）基礎から学ぶスポーツ運動学．大修館書店。</p>					
【成績評価方法】					
<p>授業への取り組みの自主性や積極性を評価する（30％）。また授業はコロキウム方式で実施されるため、ディスカッションでの発言内容を評価する（30％）。さらに授業内で課されるレポートの記載内容も評価する（40％）。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ科学論特講、スポーツ戦術論特講</p>					

科目名	舞踊教育法特講		担当者	高野美和子	
英文名	Dance Education and Teaching Method of Dance				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>本講義では、ダンスが持つ教育的価値を踏まえ、日本におけるダンス教育の歴史の変遷および諸外国との比較を通じて、学校体育における指導原理および指導法の理解を深める。また、発達段階に応じた教材・指導法、単元計画、学習評価の在り方について、具体的な事例を基に理解する。さらに、ダンス教育に関する先行研究を概観し、今日的な課題を検討する。受講生は、理論的背景と実践事例を往還させながら、プレゼンテーションやグループ討論を通じて、ダンス教育の在り方を多角的に考察する。</p>					
【授業計画】					
1. 学校体育におけるダンス		9. 単元計画の考え方と学習の評価・評定			
2. ダンス教育の史的概観		10. ダンスのグループ学習、教材・教具の工夫			
3. 諸外国のダンス教育と日本のダンス教育		11. ダンス教育と研究（プレゼンと討論③） 単元計画・評価評定及びグループ学習・教材教具の工夫について			
4. ダンス教育と研究（プレゼンと討論①） ダンス教育の歴史および現状について		12. 特別活動におけるダンス指導法1			
5. 発達段階と学習指導方法1 幼児～低学年中学年		13. 特別活動におけるダンス指導法2			
6. 発達段階と学習指導方法2 中学校～高等学校		14. ダンス教育と研究（プレゼンと討論④） 特別活動におけるダンス指導法について			
7. 発達段階と学習指導方法3 特別支援 大学		15. ダンス教育と研究（指導案プレゼンと討論⑤）			
8. ダンス教育と研究（プレゼンと討論②） 発達段階に応じた学習指導方法について					
【到達目標】					
<p>ダンスの教育的価値や学校教育・学校体育の中の位置づけを理解する。またダンス教育に関する学術研究の動向と課題を把握し、各自の関心に引きつけて論じられるようにする。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>本授業は、講義と受講生によるプレゼンテーションに基づく討議により進めていくので、授業への主体的、積極的な取り組みが求められる。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>授業前：各授業回のテーマに基づいた文献などをあらかじめ検索し通読して理解しておく。 授業後：講義で紹介された文献や資料を読解し、要点を押さえて解説できるようにする。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>適宜、資料を配付する。「中学校 学習指導要領解説 保健体育編」は、授業回によって使用する。参考書として「改訂版 明日からトライ！ダンスの授業」「みんなでトライ！表現運動の授業」他</p>					
【成績評価方法】					
<p>授業におけるプレゼンテーションやその準備を50%、討論での発言内容・活動内容を50%として総合的に評価する。</p>					
【関連科目】					
舞踊表現論特講					

科目名	舞踊表現論特講		担当者	高橋京子	
英文名	Theory of Dance Movement				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>世界中には様々な舞踊が伝承されている。本講義では舞踊の根幹である動作に加え、それらの舞踊が成立してきた社会に目を向け、社会的・文化的背景までも含めて考えることを目的とする。特に、日本各地、世界各地で伝承されてきた民俗／民族固有の舞踊を人類学的観点から捉える方法を学んでいく。</p> <p>なお、受講生の関心、研究テーマに基づき展開するため、授業計画や内容に変更が生じる可能性がある。</p>					
【授業計画】					
1. オリエンテーション (自己紹介、文献紹介、担当箇所・担当者決め等)			9. インドの舞踊と社会・文化		
2. 舞踊と民族・文化・社会			10. トルコの舞踊と社会・文化		
3. 病と舞踊			11. ガーナの舞踊と社会・文化		
4. 日本の舞踊と社会・文化			12. ブラジルの舞踊と社会・文化		
5. 韓国の舞踊と社会・文化			13. 舞踊と武術 ブラジルのカポエイラ、インドのカラリパヤット		
6. ネパールの舞踊と社会			14. デジタル記録と教材：デジタル記録と舞踊		
7. タイの舞踊と社会・文化			15. 総括		
8. インドネシアの舞踊と社会・文化					
【到達目標】					
日本各地、世界各地に伝承される舞踊について、動作のみならず社会的・文化的背景を含めて捉え、理解することができる。					
【受講上の留意点】					
本授業は毎時間の担当者を決めて、受講生が主体的に取り組み、プレゼンテーションをする授業である。担当者は担当箇所を熟読し、レジュメを作成し、プレゼンテーションをしてもらう。それ以外の者も対象箇所を熟読したうえで授業に臨み、各自討論に備えておくこと。					
※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
【授業時間外学修】					
担当者は、担当箇所の熟読、レジュメ作成準備、それ以外の者は予め対象箇所を熟読してくること。					
【教科書・参考書など】					
授業内でテキストを指定するほか、必要に応じて資料を適宜配布する					
【成績評価方法】					
授業におけるプレゼンテーション、その準備、討論等への取り組み姿勢60%、レポート課題40%として、総合的に評価する。					
【関連科目】					
舞踊教育法特講					

科目名	舞踊演出法特講		担当者	渡 沼 玲 史	
英文名	Stage Directing				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
舞台芸術としてのダンスを振付家の意図や思想と舞台上の表象との関係から分析する方法を主として英語文献を購読しながら学ぶ。基本的には様々な作家論、作品論を読むが、必要に応じて作品の映像の分析も行ってもらふ。					
【授業計画】					
1. オリエンテーション 購読文献の決定			9. 受講者による発表とディスカッション (ポストモダンダンス)		
2. 文献購読の方法と具体例			10. 受講者による発表とディスカッション (ピナ・バウシュ)		
3. 受講者による発表とディスカッション (モダンダンス)			11. 受講者による発表とディスカッション (ピナ・バウシュ)		
4. 受講者による発表とディスカッション (モダンダンス)			12. 受講者による発表とディスカッション (ピナ・バウシュ)		
5. 受講者による発表とディスカッション (カニンガム)			13. 受講者による発表とディスカッション (フォーサイス)		
6. 受講者による発表とディスカッション (カニンガム)			14. 受講者による発表とディスカッション (フォーサイス)		
7. 受講者による発表とディスカッション (ポストモダンダンス)			15. 受講者による発表とディスカッション (フォーサイス)		
8. 受講者による発表とディスカッション (ポストモダンダンス)					
【到達目標】					
英語文献の読解ができる。舞台上の表象を様々な角度から分析できる。					
【受講上の留意点】					
受講生の積極的な参加が必要になる。					
※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
【授業時間外学修】					
授業中に指示した文献の読解と参考文献の調査					
【教科書・参考書など】					
最初の授業時に受講者と相談して文献を決める。					
【成績評価方法】					
授業内で受講者の取り組みを評価する。					
【関連科目】					
比較舞踊学特講					

科目名	比較舞踊学特講		担当者	渡 沼 玲 史	
英文名	Comparative Theory of Dance				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
舞踊学の方法論の中から受講者の研究テーマに関わる方法論を取り扱った英語文献を購読する。受講生の関心と理解度に 応じて授業を進めるため必ずしもシラバス通りには進行しない。					
【授業計画】					
1. オリエンテーション 購読文献の決定			9. 受講者による発表とディスカッション (ダンスを見る：文化としてのダンス)		
2. 文献購読の方法と具体例			10. 受講者による発表とディスカッション (ダンスを見る：オリエンタリズム)		
3. 受講者による発表とディスカッション (ダンスを創る：ド・ヴァロワとアシュトン)			11. 受講者による発表とディスカッション (ダンスを見る：ダンスと批評)		
4. 受講者による発表とディスカッション (ダンスを創る：カニンガム)			12. 受講者による発表とディスカッション (ダンスと社会：ロマンティックバレエ)		
5. 受講者による発表とディスカッション (ダンスを創る：白鳥の湖)			13. 受講者による発表とディスカッション (ダンスと社会：ニジンスキー)		
6. 受講者による発表とディスカッション (ダンスを上演する：身体で歴史を描く)			14. 受講者による発表とディスカッション (ダンス研究：歴史と振り付け)		
7. 受講者による発表とディスカッション (ダンスを見る：ダンスとジェンダー)			15. 受講者による発表とディスカッション (ダンス研究：理論と実践)		
8. 受講者による発表とディスカッション (ダンスを見る：間テクスト性)					
【到達目標】					
英語文献の読解ができる。舞踊理論を理解しそれをを用いて舞踊を分析できる。					
【受講上の留意点】					
受講生の積極的な参加が必要になる。					
※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
【授業時間外学修】					
授業中に指示した文献の読解と参考文献の調査					
【教科書・参考書など】					
最初の授業時に受講者と相談して文献を決める。					
【成績評価方法】					
授業内で受講者の取り組みを評価する。					
【関連科目】					
舞踊演出法特講					

科目名	マルチメディア・パフォーマンス特講		担当者	高野美和子	
英文名	Multimedia Performance				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
マルチメディア・パフォーマンスが成立してきた背景や現状、構造の特徴などについて、実際の作品映像や文献を通じて理解し、今後の可能性について考察、検討することを目的とする。また、PCによる基本的な音響、映像の加工、編集ソフトの使用方法を理解し、実際にそれらを用いた作品制作も行う。					
【授業計画】					
1. ダンス作品の中のマルチメディア			9. 画像、映像、音編集の方法と技術④		
2. マルチメディア・パフォーマンスの歴史①			10. 画像、映像、音編集の方法と技術⑤		
3. マルチメディア・パフォーマンスの歴史②			11. 作品制作①		
4. マルチメディア・パフォーマンスの歴史③			12. 作品制作②		
5. マルチメディア・パフォーマンスの現在			13. 作品制作③		
6. 画像、映像、音編集の方法と技術①			14. 作品制作④		
7. 画像、映像、音編集の方法と技術②			15. 作品発表 鑑賞 総括		
8. 画像、映像、音編集の方法と技術③					
【到達目標】					
マルチメディア・パフォーマンスが成立してきた背景と現在、その可能性について、様々な資料・文献講読、実際の作品制作を通じて、理解し考察する。					
【受講上の留意点】					
本講義は教員側からの講義だけでなく、PCを使った編集技術の習得や作品制作など学生自身が積極的に参加する授業形態をとるため、毎時間の授業に主体的に取り組む姿勢が求められる。 ※基本的にすべての授業を対面授業で実施する。					
【授業時間外学修】					
毎回の授業後、学習した要点をまとめ、関連事項について資料収集等をする。					
【教科書・参考書など】					
No fixed points (2003) Yale University Press 20世紀ダンス史 (2013) 慶應義塾大学出版会 『舞台芸術』02特集:メディア・テクノロジー (2002) 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター					
【成績評価方法】					
講義内容の理解度を60%、授業中に提出されるレポートを20%、発表作品を20%として評価する。					
【関連科目】					
マルチメディア方法演習					

科目名	健康教育とヘルスプロモーション特講		担当者	助友裕子	
英文名	Health Promotion and Education				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>健康教育は、家庭、学校、職場、地域などあらゆる生活場面において実施されている。人々が自らの健康とその決定要因を制御することができるようにするために、個人への教育、ひいては教育環境を整備したり、あらゆる生活場面に健康づくりの機会が設けられるような政策にまで及ぶヘルスプロモーション戦略が不可欠である。本特講では、健康教育とヘルスプロモーション戦略の基礎をふまえて、国内外の取組みから、健康教育とヘルスプロモーション活動の評価枠組みについて解説し、受講者各人の関心領域をふまえたディスカッションを行う。</p>					
【授業計画】					
1. オリエンテーション			9. 女性の健康教育とエンパワメント		
2. WHOのヘルスプロモーション戦略			10. ソーシャルキャピタル		
3. 環境と健康			11. 健康の社会的決定要因		
4. ヘルスリテラシー			12. 保健医療制度と安全な社会づくり		
5. ヘルスプロモーションスクール			13. ヘルシーシティ		
6. 労働と健康			14. 疾病対策と健康教育		
7. ヘルスコミュニケーション			15. 健康教育・ヘルスプロモーション研究のデザイン		
8. 生涯を通じる健康					
【到達目標】					
<p>本特講の受講者は、自らの研究領域におけるヘルスプロモーション活動の実際を想起したり科学的に説明したりすることができるようにする。また、科学的根拠に基づいた健康情報がいかんして作られているのかを、説明することができるようにする。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>授業は、受講者による討論を中心に進める。そのため、受講者は、事前に提示された資料等をもとに自らの意見を整理した上で授業に臨み、積極的に参加することが求められる。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>WHO、厚生労働省や文部科学省等のヘルスプロモーション施策に関する時事情報を提供するので、定期的にそれらに目を通すこと。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>適宜提示する。</p>					
【成績評価方法】					
<p>授業への取り組み姿勢50%、レポート50%で総合的に評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>ライフステージと健康科学論特講、統計・調査方法演習</p>					

科目名	体育・スポーツ史特講		担当者	都 筑 真	
英文名	History of Sport and Physical Education				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>「スポーツは社会を映す鏡である」とあると言われるように、スポーツは各時代の社会の影響を色濃く受けながら変化している。また、スポーツを主たる教材とする学校体育の指針となる学習指導要領も、各時代のスポーツをめぐる状況が反映されて変化している。本講義では、明治期から現代に至るまでの国内外のスポーツ史を概観しながら、各時代における体育の学習指導要領の目標や内容を理解していく。</p>					
【授業計画】					
1. 体育・スポーツ史学の研究方法			9. 戦後におけるスポーツと武道の展開		
2. スポーツとナショナリズム			10. 戦前における学校体操教授要目		
3. スポーツの国際的組織化			11. 「新体育」や「生活体育」を謳う時期の学習指導要領		
4. スポーツとメディア・スポンサー			12. 基礎的運動能力体力重視の時期の学習指導要領		
5. 国際総合スポーツ大会の諸相			13. 「楽しい体育」を謳う時期の学習指導要領		
6. 開発のためのスポーツ			14. 体育の内容を明確化した時期の学習指導要領		
7. 明治期におけるスポーツと武術			15. 社会状況の変化に伴う学習指導要領の変遷		
8. 大正期と昭和戦前期におけるスポーツの普及と武道の創出					
【到達目標】					
<p>近現代のスポーツ史や体育の学習指導要領に関する知識を習得するとともに、社会状況の変化がスポーツや体育の学習指導要領に及ぼす影響についても理解を深めることが本講義の到達目標である。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。 講義に臨むにあたっては、講義前後の積極的かつ自主的な学習が求められる。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>講義で紹介する著書や論文などの資料を精読するなど積極的かつ自主的な事前・事後学習を心がけること。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 <参考書> 高橋健夫ほか編（2010）『新版体育科教育学入門』大修館書店 坂上康博ほか編（2018）『スポーツの世界史』一色出版</p>					
【成績評価方法】					
<p>講義ごとに課す小レポート(40%)、期末課題(60%)で評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ科学論特講、体育・スポーツ教育論特講、スポーツ科学特演Ⅰ～Ⅳ</p>					

科目名	スポーツ科学特演Ⅰ		担当者	上林 功、古泉佳代 助友裕子、 ほか	
英文名	Seminar in Sport SciencesⅠ				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特演・選択
【授業概要・方法】					
<p>本特演は、スポーツ科学領域における独自の科学的知見を示すための研究遂行の仕方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身に付けることを目的とする。特演Ⅰでは、研究倫理について理解した上で、スポーツ医学やコーチング、健康科学、マネジメント、舞踊等のスポーツ科学研究領域のうち、各自の志向に応じた様々な検討課題・テーマを扱った学術論文や関連著書等を抄読することができるようにするための基礎的知識やスキル（研究方法、データ分析法、論文構成など）の理解を深める。</p>					
【授業計画】					
1. スポーツ科学の研究領域と研究倫理		9. スポーツ科学におけるデータ収集法(4)			
2. スポーツ科学における研究方法(1)		10. スポーツ科学におけるデータ分析法(1)			
3. スポーツ科学における研究方法(2)		11. スポーツ科学におけるデータ分析法(2)			
4. スポーツ科学における研究方法(3)		12. スポーツ科学におけるデータ分析法(3)			
5. スポーツ科学における研究方法(4)		13. スポーツ科学におけるデータ分析法(4)			
6. スポーツ科学におけるデータ収集法(1)		14. 学術論文の構成と書き方Ⅰ			
7. スポーツ科学におけるデータ収集法(2)		15. 学術論文の構成と書き方Ⅱ			
8. スポーツ科学におけるデータ収集法(3)					
【到達目標】					
<p>(1) スポーツ科学に関連する研究領域の学術論文・専門図書を読み理解するために必要な基礎的知識やスキルとしての研究方法、データの収集と分析方法に関して理解し研究倫理をふまえた上で説明することができる。 (2) 学術論文の構成について理解すると共に、学術論文にふさわしい文章表現での作文ができる。</p>					
【受講上の留意点】					
十分な理解とスキルの定着を図るために自習課題を課すので地道に取り組むことが求められる。					
【授業時間外学修】					
提示された課題に取り組むとともに関連文献を熟読する。					
【教科書・参考書など】					
教科書は特に定めない。 ※参考文献や参考資料は適宜、紹介する（適宜、配布する）。					
【成績評価方法】					
到達目標の達成度により評価する。					
【関連科目】					
スポーツ科学論特講、スポーツ科学特演Ⅱ、スポーツ科学特演Ⅲ、スポーツ科学特演Ⅳ					

科目名	スポーツ科学特演Ⅱ		担当者	上林 功、古泉佳代 助友裕子、ほか	
英文名	Seminar in Sport Sciences II				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特演・選択
【授業概要・方法】					
<p>本特演は、スポーツ科学領域における独自の科学的知見を示すための研究遂行の仕方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身に付けることを目的とする。特演Ⅱでは、特演Ⅰで学んだ知識とスキルを用いて文献や資料をレビューし、自らの研究テーマに関連する情報を検索・整理し、検討すべき課題を明確にしていく。</p>					
【授業計画】					
1. スポーツ科学の研究課題：概論		9. 研究レビュー(6)：自主課題発表⑥			
2. 関連論文の検索法		10. 研究レビュー(7)：自主課題発表⑦			
3. 関連論文の整理法		11. レビューのまとめ(1)：研究動向の整理・発表			
4. 研究レビュー(1)：自主課題発表①		12. レビューのまとめ(2)：研究テーマの明確化			
5. 研究レビュー(2)：自主課題発表②		13. レビューのまとめ(3)：研究テーマの意義と有益性			
6. 研究レビュー(3)：自主課題発表③		14. レビューのまとめ(4)：研究テーマ説明のアウトライン			
7. 研究レビュー(4)：自主課題発表④		15. レビューのまとめ(5)：文章構成の具体的方法・表現			
8. 研究レビュー(5)：自主課題発表⑤					
【到達目標】					
<p>(1) 研究テーマに関連する学術論文・専門図書の検索法、収集した情報の整理法を理解し、その方法を用いて自らの研究テーマの意義やオリジナリティを明確にするための先行研究レビューができる。</p> <p>(2) レビューした研究の抄録を作成、蓄積し、自らの研究テーマを明確にすると共に、それに関わる研究動向を明らかにすることができる。</p> <p>(3) 自らがその研究課題を設定するに至った経緯をまとめ、具体的に文章としてまとめることができる。</p>					
【受講上の留意点】					
自習課題を課すので地道に取り組むことが求められる。					
【授業時間外学修】					
各自の研究テーマに沿って関連する文献・資料を収集・整理する。					
【教科書・参考書など】					
教科書は特に定めない。 ※参考文献や参考資料は適宜、紹介する（適宜、配布する）。					
【成績評価方法】					
到達目標の達成度により評価する。					
【関連科目】					
スポーツ科学論特講、スポーツ科学特演Ⅰ、スポーツ科学特演Ⅲ、スポーツ科学特演Ⅳ					

科目名	スポーツ科学特演Ⅲ		担当者	上林 功、古泉佳代 須甲理生、 ほか	
英文名	Seminar in Sport Sciences Ⅲ				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特演・選択
【授業概要・方法】					
<p>本特演は、スポーツ科学領域における独自の科学的知見を示すための研究遂行の仕方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身に付けることを目的とする。特演Ⅲでは、特演Ⅱで議論した研究テーマに関わる問題の所在に基づき、倫理的配慮をふまえた調査あるいは実験の計画を立て、特演Ⅰで学んだ調査実施法とデータ分析法に基づいて実際にデータを収集し分析を行う。</p>					
【授業計画】					
1. 調査・実験の計画立案と研究倫理		9. 調査・実験の実施(3)			
2. 調査・実験の計画立案(1)		10. 収集データの整理および分析(1)			
3. 調査・実験の計画立案(2)		11. 収集データの整理および分析(2)			
4. 調査・実験の準備(1)		12. 収集データの整理および分析(3)			
5. 調査・実験の準備(2)		13. 結果についての考察(1)			
6. 調査・実験の準備(3)		14. 結果についての考察(2)			
7. 調査・実験の実施(1)		15. 結果についての考察(3)			
8. 調査・実験の実施(2)					
【到達目標】					
<p>(1) 自らの研究テーマに基づく研究目的、研究方法を明確にし、倫理的配慮をふまえて調査・実験の具体的手立てを計画立案することができる。</p> <p>(2) 研究計画にそって、調査・実験を実施することができる。</p> <p>(3) 収集されたデータを正しく分析・整理することができる。</p> <p>(4) 得られた結果を詳しく考察し、自らの研究テーマと研究目的に照らしてどのような知見が得られているかを抽出することができる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>本特演は、受講者自らが自らに課題を課し、その課題解決作業を実施して、その進捗状況や作業上生じた新たな課題を確認・議論しながら進められる。受講者には、自らの課題解決に向けた作業継続の強い意志と、研究計画に基づく作業手続きを着実に進める実践力が求められる。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>基本的留意事項をふまえながら、研究を計画・実施し、収集したデータの分析と考察を行なう。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>教科書は特に定めない。 ※参考文献や参考資料は適宜、紹介する（適宜、配布する）。</p>					
【成績評価方法】					
<p>到達目標の達成度により評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ科学論特講、スポーツ科学特演Ⅰ、スポーツ科学特演Ⅱ、スポーツ科学特演Ⅳ</p>					

科目名	スポーツ科学特演Ⅳ		担当者	上林 功、古泉佳代 須甲理生、 ほか	
英文名	Seminar in Sport Sciences IV				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特演・選択
【授業概要・方法】					
<p>本特演は、スポーツ科学領域における独自の科学的知見を示すための研究遂行の仕方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身に付けることを目的とする。特演Ⅳでは、特演Ⅲまでの学習、調査、分析、および討議から得られた知見をさらに整理・再検討し、自らの研究の成果を論文として構成できるように、それぞれの学問分野における一般的な章立てに則った文章作成法を実地の例題による作文を通じて学んでいく。</p>					
【授業計画】					
1. 論文作成上の一般的留意事項を理解する (1)：構成（章立て）			9. 「結果」の書き方について理解する (1)：結果のまとめ方		
2. 論文作成上の一般的留意事項を理解する (2)：文章、用語			10. 「結果」の書き方について理解する (2)：図表の作成方法		
3. 論文作成上の一般的留意事項を理解する (3)：図表			11. 「考察」の書き方を理解する(1)		
4. 「研究方法」の書き方について理解する			12. 「考察」の書き方を理解する(2)		
5. 「問題の所在」の書き方について理解する (1)：動機と周辺的問題のまとめ方			13. 「考察」の書き方を理解する(3)		
6. 「問題の所在」の書き方について理解する (2)：中心的問題（先行研究）のまとめ方			14. 「まとめ」の書き方を理解する ：論文全体のまとめと今後の課題のまとめ方		
7. 「問題の所在」の書き方について理解する (3)：中心的問題（研究の主要課題）のまとめ方			15. 「目次」・「文献」・「資料」の書き方を理解する		
8. 「研究目的」・「論文の構成・流れ」の書き方について理解する					
【到達目標】					
<p>(1) 学位に関わるスポーツ領域の研究論文として体裁の整った論文を作成する能力を身につける。 (2) 自ら設定した研究テーマに基づき、計画的に進められた研究の過程とそれにより得られた結果を適切に章立てしまとめ、研究課題がどのように解決され、またどのような検討課題が残ったのかを明確に示すことができる。 (3) 論理的かつ客観的に、そして正確な日本語の文法に沿った記述ができる。 (4) スポーツ科学領域に関わる研究成果を学術論文として発表する場合の論文作成法について理解できている。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>本特演は、特演Ⅰから特演Ⅲにおいて学習したスポーツ科学領域の研究論文を作成するための知識とスキルに基づく研究作業の総仕上げとして、修士論文を完成させるための文章作成法を学ぶことが目的である。受講者は、授業計画に沿って例題に基づく作文と修正作業を通じて、修士論文の作成スキルを身につけなければならない。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>論文作成上の基本的留意事項をふまえながら修士論文の作成に取り組む。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>教科書は特に定めない。 ※参考文献や参考資料は適宜、紹介する（適宜、配布する）。</p>					
【成績評価方法】					
<p>到達目標の達成度により評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ科学論特講、スポーツ科学特演Ⅰ、スポーツ科学特演Ⅱ、スポーツ科学特演Ⅲ</p>					

科目名	測定方法演習		担当者	星川佳広			
英文名	Practice for test and measurement in sports science						
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択		
【授業概要・方法】							
<p>「測る」とは測られる対象に「数値を当てはめること」である。スポーツやダンスのパフォーマンス、ヒトの生理や心理、教育や学習の効果、様々な社会現象など、直観では判断できない事象に対し、調査や実験、実践を通して誰もが共通に理解できる数値を当てはめ、根拠をもとに意見を組み立てるのが研究である。近年「測定」後のデータ処理や統計、あるいはその解釈さえもAIにより自動化されつつあるが、不適切な「測定」から生まれたデータは間違った結論へ導くことになる。適切な「測定」には、数値の背景にある理論、数値を当てはめる変数や尺度、数値を客観かつ正確に測る技術、測定環境の整備、適切な被検者の選定や関係性・・・様々な知識、技量、センスが必要になる。本演習では実際の「測定」を通して、「測る」に伴う注意すべきポイントへの感覚を養う。</p>							
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>1. ガイダンスおよび測定の妥当性と再現性、尺度の種類、測定の誤差、正規分布</p> <p>2. 酸素摂取量① (生理学と測定・計算法、健康・スポーツ科学上の意味)</p> <p>3. 酸素摂取量② (ダグラスバック法、定常負荷運動時の応答、運動強度—酸素摂取量関係、運動の効率)</p> <p>4. 酸素摂取量③ (エネルギー消費量、効率の計算、メッツとの関係性)</p> <p>5. 身体活動量・トレーニング量① (生理学と測定法、健康・スポーツ科学上の意味)</p> <p>6. 身体活動量・トレーニング量② (心拍計、加速度計、GPS、サンプリング)</p> <p>7. 身体活動量・トレーニング量③ (エネルギー消費量の計算、23メッツ・時、内的・外的負荷等)</p> <p>8. 質問紙調査・官能検査① (概念と尺度、尺度水準、心理的競技能力診断検査)</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>9. 質問紙調査・官能検査② (ものさしをつくる、サーストン法、リカート法)</p> <p>10. 質問紙調査・官能検査③ (順位を決める、1対比較法)</p> <p>11. 運動の力学① (形態計測、次元、重心、キネティクス、キネマティクス等、健康・スポーツ科学上の意味)</p> <p>12. 運動の力学② (等速性筋力、関節角度—トルク、速度—力関係)</p> <p>13. 運動の力学③ (重心、垂直跳時の床反力と重心変位、動作解析)</p> <p>14. 測定の実際における注意事項① (声掛け、明確な指示、測定の誤差要因)</p> <p>15. 測定の実際における注意事項②</p> </td> </tr> </table>						<p>1. ガイダンスおよび測定の妥当性と再現性、尺度の種類、測定の誤差、正規分布</p> <p>2. 酸素摂取量① (生理学と測定・計算法、健康・スポーツ科学上の意味)</p> <p>3. 酸素摂取量② (ダグラスバック法、定常負荷運動時の応答、運動強度—酸素摂取量関係、運動の効率)</p> <p>4. 酸素摂取量③ (エネルギー消費量、効率の計算、メッツとの関係性)</p> <p>5. 身体活動量・トレーニング量① (生理学と測定法、健康・スポーツ科学上の意味)</p> <p>6. 身体活動量・トレーニング量② (心拍計、加速度計、GPS、サンプリング)</p> <p>7. 身体活動量・トレーニング量③ (エネルギー消費量の計算、23メッツ・時、内的・外的負荷等)</p> <p>8. 質問紙調査・官能検査① (概念と尺度、尺度水準、心理的競技能力診断検査)</p>	<p>9. 質問紙調査・官能検査② (ものさしをつくる、サーストン法、リカート法)</p> <p>10. 質問紙調査・官能検査③ (順位を決める、1対比較法)</p> <p>11. 運動の力学① (形態計測、次元、重心、キネティクス、キネマティクス等、健康・スポーツ科学上の意味)</p> <p>12. 運動の力学② (等速性筋力、関節角度—トルク、速度—力関係)</p> <p>13. 運動の力学③ (重心、垂直跳時の床反力と重心変位、動作解析)</p> <p>14. 測定の実際における注意事項① (声掛け、明確な指示、測定の誤差要因)</p> <p>15. 測定の実際における注意事項②</p>
<p>1. ガイダンスおよび測定の妥当性と再現性、尺度の種類、測定の誤差、正規分布</p> <p>2. 酸素摂取量① (生理学と測定・計算法、健康・スポーツ科学上の意味)</p> <p>3. 酸素摂取量② (ダグラスバック法、定常負荷運動時の応答、運動強度—酸素摂取量関係、運動の効率)</p> <p>4. 酸素摂取量③ (エネルギー消費量、効率の計算、メッツとの関係性)</p> <p>5. 身体活動量・トレーニング量① (生理学と測定法、健康・スポーツ科学上の意味)</p> <p>6. 身体活動量・トレーニング量② (心拍計、加速度計、GPS、サンプリング)</p> <p>7. 身体活動量・トレーニング量③ (エネルギー消費量の計算、23メッツ・時、内的・外的負荷等)</p> <p>8. 質問紙調査・官能検査① (概念と尺度、尺度水準、心理的競技能力診断検査)</p>	<p>9. 質問紙調査・官能検査② (ものさしをつくる、サーストン法、リカート法)</p> <p>10. 質問紙調査・官能検査③ (順位を決める、1対比較法)</p> <p>11. 運動の力学① (形態計測、次元、重心、キネティクス、キネマティクス等、健康・スポーツ科学上の意味)</p> <p>12. 運動の力学② (等速性筋力、関節角度—トルク、速度—力関係)</p> <p>13. 運動の力学③ (重心、垂直跳時の床反力と重心変位、動作解析)</p> <p>14. 測定の実際における注意事項① (声掛け、明確な指示、測定の誤差要因)</p> <p>15. 測定の実際における注意事項②</p>						
【到達目標】							
測定内容の妥当性や測定原理を理解した上で、適切な測定を企画し、実際に測定を行い、データを取得することができる。							
【受講上の留意点】							
測定原理、方法の理解をしたうえで実際に測定を企画、実施し、測定結果をコンピュータを使って分析する。受講生の興味により測定内容を調整し、また、受講生同士で検者、被検者を務め、実際に装置を装着してからだを動かす場面があるので協力的に参加すること。測定機器の準備やメンテナンス、得られたデータの整理等も重要な学習事項であるので、授業時間以外の活動も生じる							
【授業時間外学修】							
次回の測定内容について各自で事前に調べておくこと							
【教科書・参考書など】							
必要に応じて資料を配布する							
【成績評価方法】							
授業内の質疑50%および測定の貢献度、習熟度50%で評価する							
【関連科目】							
スポーツ生理学特講、スポーツ心理学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツバイオメカニクス特講、スポーツ外傷リハビリテーション特講							

科目名	統計・調査方法演習		担当者	助友 裕子・永野 康治	
英文名	Statistical Surveys Practice				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択
【授業概要・方法】					
<p>スポーツ科学に関する研究活動にとって、調査設計、データ収集およびその解析は、研究活動の主軸をなすものである。近年、ICT技術の普及とともに様々な解析ソフトが開発されるなど、データ解析の利便性は飛躍的な向上をみせている。スポーツ科学に関する研究活動においては、種々の研究テーマに適合した調査ならびに解析方法を設計したり、解析結果を適切に解釈したりすることができるようにする必要がある。</p> <p>本演習では、統計解析を用いた結果の解釈方法や各種検定方法について学習し、統計解析ソフト等を活用しながら、スポーツ科学に関する研究テーマで用いられることの多い解析方法に取り組み、統計解析の応用についても考察する。</p>					
【授業計画】					
1. 統計・調査方法概論			9. 仮説検定 (2) 効果量と検出力		
2. データの型と統計手法			10. ランダム化と交絡		
3. 統計解析の基礎 (1) データの整理			11. 多変量解析		
4. 統計解析の基礎 (2) データの集計			12. 様々な研究デザイン		
5. 統計解析の基礎 (3) データ集計			13. 質的研究		
6. 統計解析の基礎 (4) データの分析			14. 混合研究法		
7. 統計解析の基礎 (5) データ集計の応用			15. 総合討論		
8. 仮説検定 (1) 検定の基礎					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計解析の基礎的な方法論を理解し、スポーツ科学に関する先行研究の解析結果を適切に解釈することができる。 2. 統計解析の基礎的な方法論を理解し、データベースの作成および各種検定を行うことができる。 3. スポーツ科学に関する研究テーマにおいて調査設計を行うことができる。 4. 様々な調査方法への理解を深め、自身の研究計画の独創性について考察することができる。 					
【受講上の留意点】					
<p>本演習では、先行研究を用いた結果の解釈、各種調査方法および統計解析方法の講義、統計解析の実際（演習）を組み合わせながら進める。授業内でパソコンを使用することが必要となるが、本演習の受講に当たり新たに購入する必要はない。演習については教科書を基に進める。詳細は、授業内で指示する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>適宜課題を提示する。このほか、自身の研究計画にみあった各種論文の精読に取り組む。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>・教科書 医療者のためのExcel入門 第2版 (医学書院)</p>					
【成績評価方法】					
<p>毎回の課題への取り組みを50%、レポート課題を50%として評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ科学特演 I ～IV</p>					

科目名	マルチメディア方法演習		担当者	高野美和子	
英文名	Seminar of Methodology on Multimedia				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択
【授業概要・方法】					
<p>今日マルチメディアの使用はダンスやスポーツの研究領域においても、表現・伝達のコミュニケーション・ツールとして浸透してきている。この授業では、様々な情報、資料をPCを用いて加工・編集する技術について、実践を通じて理解、習得することを目的とする。</p>					
【授業計画】					
1. 画像処理・製作方法（静止画・動画の撮影、取り込み）		9. 【課題1】作品発表 鑑賞			
2. 映像処理・製作方法（静止画・動画の加工、編集）		10. 音声・音楽処理・製作方法（録音、取り込み）			
3. 映像処理・製作方法（静止画・動画の加工、編集、書き出し）		11. 音声・音楽処理・製作方法（加工・編集・書き出し）			
4. マルチメディア作品制作【課題1】① 構想、計画発表、素材収集		12. マルチメディア作品制作【課題2】① 構想、計画発表、素材収集			
5. マルチメディア作品制作【課題1】② 撮影、編集		13. マルチメディア作品制作【課題2】② 編集、加工			
6. マルチメディア作品制作【課題1】③ 編集、加工		14. マルチメディア作品制作【課題2】③ 編集、加工、書き出し			
7. マルチメディア作品制作【課題1】④ 編集、経過発表		15【課題2】作品発表 鑑賞 総括			
8. マルチメディア作品制作【課題1】⑤ 編集、書き出し					
【到達目標】					
授業中に実践する各メディアの基本的な編集加工技術を習得し、自分の研究分野に活かすことができる。					
【受講上の留意点】					
<p>本演習では、短い時間の中でPCをはじめ様々な機材を使用するため、それらの周辺機器を含め機材の扱い方も理解しながら、毎時間の課題に積極的に取り組む姿勢が求められる。 ※基本的にすべての授業を対面授業で実施する。</p>					
【授業時間外学修】					
毎回の授業後、学習した要点をまとめ、関連事項について資料収集等をする。					
【教科書・参考書など】					
授業時に参考資料を配布する。					
【成績評価方法】					
授業課題の取り組み姿勢、理解度を70%、課題作品の達成度を30%として評価する。					
【関連科目】					
マルチメディア・パフォーマンス特講					

科目名	健康スポーツ指導方法演習		担当者	沢井史穂																	
英文名	Practice of programming and instruction technique for health and fitness exercise																				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択																
【授業概要・方法】																					
<p>近年、先進諸国においては身体活動不足が死亡や要介護の危険因子となっている。我が国では、学校教育の中で定期的に身体を動かす機会が保証されているが、学校を卒業した後も健康づくりのために運動を習慣化している人の数は少ない。その理由の1つに、対象者に応じた適切な健康スポーツを指導できる人材の不足が挙げられる。超高齢社会を迎えた今、あらゆる年代の人々の健康保持増進・体力維持向上を図り、健康寿命の延伸につながる運動プログラムを作成し、その実践法的に伝えられる指導者が求められている。本授業では、対象者特性に応じた運動の質と量を見きわめ、安全性とトレーニング効果を兼ね備えた健康スポーツのプログラム作成法と参加者のモチベーションを高めるハイレベルの運動指導法を学ぶ。</p>																					
【授業計画】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 健康スポーツの動向・健康スポーツの基本プログラム 年齢・目的に応じた種目と構成</td> <td>9. コンディショニングの運動プログラミングと指導法② バランスボール</td> </tr> <tr> <td>2. 有酸素性運動のプログラミングと指導法① エクササイズウォーキング・リズムウォーキング</td> <td>10. コンディショニングの運動プログラムの実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習</td> </tr> <tr> <td>3. 有酸素性運動のプログラミングと指導法② エアロビックダンスエクササイズ</td> <td>11. トレーニングプログラムのバリエーション① サーキットトレーニング/ステップエクササイズ</td> </tr> <tr> <td>4. 有酸素性運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習</td> <td>12. トレーニングプログラムのバリエーション② マーシャル・アーツ</td> </tr> <tr> <td>5. レジスタンス運動のプログラミングと指導法① 自重負荷トレーニング</td> <td>13. 高齢者向けの運動プログラミングと指導法</td> </tr> <tr> <td>6. レジスタンス運動のプログラミングと指導法② ダンベルトレーニング・チューブトレーニング</td> <td>14. 年齢・目的に応じた健康スポーツのプログラム作成 各自で作成した運動プログラムの発表と修正</td> </tr> <tr> <td>7. レジスタンス運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習</td> <td>15. 年齢・目的に応じた健康スポーツプログラムの指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習</td> </tr> <tr> <td>8. コンディショニングの運動プログラミングと指導法① ストレッチングとセルフマッサージ</td> <td></td> </tr> </table>						1. 健康スポーツの動向・健康スポーツの基本プログラム 年齢・目的に応じた種目と構成	9. コンディショニングの運動プログラミングと指導法② バランスボール	2. 有酸素性運動のプログラミングと指導法① エクササイズウォーキング・リズムウォーキング	10. コンディショニングの運動プログラムの実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	3. 有酸素性運動のプログラミングと指導法② エアロビックダンスエクササイズ	11. トレーニングプログラムのバリエーション① サーキットトレーニング/ステップエクササイズ	4. 有酸素性運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	12. トレーニングプログラムのバリエーション② マーシャル・アーツ	5. レジスタンス運動のプログラミングと指導法① 自重負荷トレーニング	13. 高齢者向けの運動プログラミングと指導法	6. レジスタンス運動のプログラミングと指導法② ダンベルトレーニング・チューブトレーニング	14. 年齢・目的に応じた健康スポーツのプログラム作成 各自で作成した運動プログラムの発表と修正	7. レジスタンス運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	15. 年齢・目的に応じた健康スポーツプログラムの指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	8. コンディショニングの運動プログラミングと指導法① ストレッチングとセルフマッサージ	
1. 健康スポーツの動向・健康スポーツの基本プログラム 年齢・目的に応じた種目と構成	9. コンディショニングの運動プログラミングと指導法② バランスボール																				
2. 有酸素性運動のプログラミングと指導法① エクササイズウォーキング・リズムウォーキング	10. コンディショニングの運動プログラムの実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習																				
3. 有酸素性運動のプログラミングと指導法② エアロビックダンスエクササイズ	11. トレーニングプログラムのバリエーション① サーキットトレーニング/ステップエクササイズ																				
4. 有酸素性運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	12. トレーニングプログラムのバリエーション② マーシャル・アーツ																				
5. レジスタンス運動のプログラミングと指導法① 自重負荷トレーニング	13. 高齢者向けの運動プログラミングと指導法																				
6. レジスタンス運動のプログラミングと指導法② ダンベルトレーニング・チューブトレーニング	14. 年齢・目的に応じた健康スポーツのプログラム作成 各自で作成した運動プログラムの発表と修正																				
7. レジスタンス運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	15. 年齢・目的に応じた健康スポーツプログラムの指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習																				
8. コンディショニングの運動プログラミングと指導法① ストレッチングとセルフマッサージ																					
【到達目標】																					
<p>健康・体力づくりにつながる運動の質と量についてのガイドラインと健康スポーツの指導理論を踏まえて、対象者の能力や特性、運動目的に応じた適切な運動プログラムを作成できる能力と、それを安全で効果的に楽しく実演指導できる能力を身につける。</p>																					
【受講上の留意点】																					
<p>毎回、異なるテーマで実習を行うので、極力全授業に出席すること。実習中心なので、スポーツウエアとシューズ着用のこと。タオルと飲料水を持参すること。</p>																					
【授業時間外学修】																					
<p>予め、次の授業に関連する資料を読んでから授業に臨むこと。また、各回終了後に実習した内容を復習すること。学習内容を踏まえて独自の運動プログラムを作成し、実演指導できるよう練習をすること。</p>																					
【教科書・参考書など】																					
<p>「健康スポーツのすすめ」（日本評論社）。毎回資料を配布する。</p>																					
【成績評価方法】																					
<p>授業への取り組み姿勢（ディスカッション能力含む）30%、課題（運動プログラミング能力）35%、プレゼンテーション能力35%</p>																					
【関連科目】																					
<p>ライフステージと健康科学論特講</p>																					

科目名	保健体育科指導方法演習 I		担当者	柴田雅貴	
英文名	Practice of instruction for health and physical education I				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択
【授業概要・方法】					
<p>本科目では、2017・2018年改訂学習指導要領の保健体育科で求められる資質・能力を子供たちに習得させていくために必要な実践的指導力の育成を目的としている。具体的には、学部のスポーツやダンス実技に関する授業に指導補助者として関わりながら、指導実践とその省察を行っていく。また、主体的・対話的で深い学びを授業の中に具現化するための方法やICTを取り入れた実践を指導補助者として経験していく。本科目の最後には、指導実践と省察の往還のまとめとして、受講生同士で指導補助経験に関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p>					
【授業計画】					
<p>1. 実技授業に関わる事前指導①：学習指導要領で求められる資質・能力を子供達に確実に保証するための指導方法について</p> <p>2. 実技授業に関わる事前指導②：実技授業クラスの配置決定、指導補助者の役割の確認、省察課題の理解</p> <p>3. 実技授業の指導と省察①</p> <p>4. 実技授業の指導と省察②</p> <p>5. 実技授業の指導と省察③</p> <p>6. 実技授業の指導と省察④</p> <p>7. 実技授業の指導と省察⑤</p> <p>8. 実技授業の指導と省察⑥</p> <p>9. 実技授業の指導と省察⑦</p> <p>10. 実技授業の指導と省察⑧</p> <p>11. 実技授業の指導と省察⑨</p> <p>12. 実技授業の指導と省察⑩</p> <p>13. 実技授業の指導と省察⑪</p> <p>14. 実技授業の指導と省察⑫</p> <p>15. 総括：プレゼンテーションと討論</p>					
【到達目標】					
<p>(1) 効果的な授業を実践するための指導力を身に付ける。</p> <p>(2) 指導力量の形成や指導改善のための効果的な省察を行うことができる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>自身が受けてきた体育授業や教育実習等で実践してきた体育授業のイメージを想起しながら受講すること。グループワークやディスカッションの際は、積極的な取り組みが求められる。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>毎回の授業後、自身の指導補助に関する省察課題を行う。また、15回目でのプレゼンテーションのための資料作成を行う。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。</p> <p>(参考書) 高橋健夫ほか編 (2010) 「新版体育科教育学入門」大修館書店 高橋健夫編 (2003) 「体育授業を観察評価する：授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」明和出版 竹田清彦ほか編 (1997) 「体育科教育学の探究：体育授業づくりの基礎理論」大修館書店</p>					
【成績評価方法】					
<p>省察課題を40%、最終プレゼンテーションとレポート課題を60%として評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>保健体育科指導方法演習Ⅱ、体育・スポーツ教育論特講</p>					

科目名	保健体育科指導方法演習Ⅱ		担当者	須甲理生																	
英文名	Practice of instruction for health and physical education Ⅱ																				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択																
【授業概要・方法】																					
<p>本科目では、2017・2018年改訂学習指導要領の保健体育科で求められる資質・能力を子供たちに習得させていくために必要な実践的指導力の育成を目的としている。具体的には、学部保健や体育の模擬授業の指導補助者として、模擬授業観察、授業場面のデータ収集・分析（期間記録法、相互作用行動観察法）、授業者役への指導助言等に関わる。本科目の最後には、受講生同士で模擬授業の指導補助者の経験に関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p>																					
【授業計画】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 授業に関わる事前指導①：授業場面のデータ収集・分析方法（期間記録法、相互作用行動観察法）の理解</td> <td>9. 模擬授業授業の指導補助と省察⑦</td> </tr> <tr> <td>2. 授業に関わる事前指導②：模擬授業クラスの配置決定、指導補助者の役割の確認、省察課題の理解</td> <td>10. 模擬授業授業の指導補助と省察⑧</td> </tr> <tr> <td>3. 模擬授業授業の指導補助と省察①</td> <td>11. 模擬授業授業の指導補助と省察⑨</td> </tr> <tr> <td>4. 模擬授業授業の指導補助と省察②</td> <td>12. 模擬授業授業の指導補助と省察⑩</td> </tr> <tr> <td>5. 模擬授業授業の指導補助と省察③</td> <td>13. 模擬授業授業の指導補助と省察⑪</td> </tr> <tr> <td>6. 模擬授業授業の指導補助と省察④</td> <td>14. 模擬授業授業の指導補助と省察⑫</td> </tr> <tr> <td>7. 模擬授業授業の指導補助と省察⑤</td> <td>15. 総括：プレゼンテーションと討論</td> </tr> <tr> <td>8. 模擬授業授業の指導補助と省察⑥</td> <td></td> </tr> </table>						1. 授業に関わる事前指導①：授業場面のデータ収集・分析方法（期間記録法、相互作用行動観察法）の理解	9. 模擬授業授業の指導補助と省察⑦	2. 授業に関わる事前指導②：模擬授業クラスの配置決定、指導補助者の役割の確認、省察課題の理解	10. 模擬授業授業の指導補助と省察⑧	3. 模擬授業授業の指導補助と省察①	11. 模擬授業授業の指導補助と省察⑨	4. 模擬授業授業の指導補助と省察②	12. 模擬授業授業の指導補助と省察⑩	5. 模擬授業授業の指導補助と省察③	13. 模擬授業授業の指導補助と省察⑪	6. 模擬授業授業の指導補助と省察④	14. 模擬授業授業の指導補助と省察⑫	7. 模擬授業授業の指導補助と省察⑤	15. 総括：プレゼンテーションと討論	8. 模擬授業授業の指導補助と省察⑥	
1. 授業に関わる事前指導①：授業場面のデータ収集・分析方法（期間記録法、相互作用行動観察法）の理解	9. 模擬授業授業の指導補助と省察⑦																				
2. 授業に関わる事前指導②：模擬授業クラスの配置決定、指導補助者の役割の確認、省察課題の理解	10. 模擬授業授業の指導補助と省察⑧																				
3. 模擬授業授業の指導補助と省察①	11. 模擬授業授業の指導補助と省察⑨																				
4. 模擬授業授業の指導補助と省察②	12. 模擬授業授業の指導補助と省察⑩																				
5. 模擬授業授業の指導補助と省察③	13. 模擬授業授業の指導補助と省察⑪																				
6. 模擬授業授業の指導補助と省察④	14. 模擬授業授業の指導補助と省察⑫																				
7. 模擬授業授業の指導補助と省察⑤	15. 総括：プレゼンテーションと討論																				
8. 模擬授業授業の指導補助と省察⑥																					
【到達目標】																					
<p>(1) 効果的な授業を実践するための指導力を身に付ける。 (2) 他者の授業実践を正確に観察・分析し、分析データから授業改善の視点を見付けることができる。 (3) 他者の授業から自身の授業力量を形成するための省察能力を身に付ける。</p>																					
【受講上の留意点】																					
<p>他者の模擬授業から改善点を見出し、自身の力量形成に繋げるための主体性が求められる。グループワークやディスカッションの際は、積極的な取り組みが求められる。</p>																					
【授業時間外学修】																					
<p>模擬授業で行われる単元の予習、観察データの収集・分析、毎授業後の省察課題を行う。また、15回目でのプレゼンテーションのための資料作成を行う。</p>																					
【教科書・参考書など】																					
<p>教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。 (参考書) 高橋健夫ほか編 (2010) 「新版体育科教育学入門」大修館書店 高橋健夫編 (2003) 「体育授業を観察評価する：授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」明和出版 竹田清彦ほか編 (1997) 「体育科教育学の探究：体育授業づくりの基礎理論」大修館書店</p>																					
【成績評価方法】																					
<p>省察課題を40%、最終プレゼンテーションとレポート課題を60%として評価する。</p>																					
【関連科目】																					
<p>保健体育科指導方法演習Ⅰ、体育・スポーツ教育論特講</p>																					

科目名	スポーツ指導実践演習		担当者	大橋 祐二	
英文名	Seminar in Sport Instruction Practice				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
【授業概要・方法】					
<p>スポーツ指導者には、スポーツ指導現場で直面する様々な問題について臨機応変に対応できる能力が求められている。そのためには、理論を理解するだけでなく、実際のスポーツ指導現場で対象者や状況に応じた指導計画の立案および指導方法について学ぶことが重要である。本演習では、世田谷区スポーツ振興財団の協力を得て、スポーツ指導現場での指導補助を行うことにより、指導実践能力の向上を目的とする。</p>					
【授業計画】					
1. 日本におけるスポーツ指導者の現状について			9. スポーツ教室におけるスポーツ指導実習		
2. スポーツ指導における基本理論			10. スポーツ指導実習の中間報告		
3. スポーツ指導におけるスキル			11. スポーツイベント事業での実習		
4. スポーツ教室におけるスポーツ指導実習			12. スポーツイベント事業での実習		
5. スポーツ教室におけるスポーツ指導実習			13. スポーツイベント事業での実習		
6. スポーツ教室におけるスポーツ指導実習			14. スポーツイベント事業での実習		
7. スポーツ教室におけるスポーツ指導実習			15. 討論		
8. スポーツ教室におけるスポーツ指導実習					
【到達目標】					
<p>スポーツ指導方法の基本的な理論やスキルを理解し、それをスポーツ指導現場で実践することによって、様々な対象者や状況に応じたスポーツ指導方法を習得する。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>学外実習のため、積極的で丁寧な対応が望まれる。</p>					
<p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>スポーツ指導における理論やスキルを理解する。実習後は実習の様子を日誌に詳細に記し、理論と実践を融合させる。中間報告および討論では、実習での経験をまとめ、資料を作成する。</p>					
【教科書・参考書など】					
【成績評価方法】					
<p>実習への取り組み方50%、報告・レポート50%として評価する。</p>					
【関連科目】					

科目名	スポーツ事業所実践演習		担当者	上林 功	
英文名	Practice of Sport Business Organization				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
【授業概要・方法】					
<p>本講義では、スポーツクラブやスポーツ用品メーカー、体育・スポーツ施設など、スポーツ関連産業における事業所での実務実習を通じて、現場における様々な問題点を発見し、その具体的な改善策を提案・実施できるようになることを目的とする。修士課程における各自の研究活動を通じて身につけた能力を、実務に役立つ課題解決力に結び付けるための実践的な学修をおこなう。</p>					
【授業計画】					
1. 概要説明、実習の進め方、希望実習先ヒアリング					
2. 希望実習先とのマッチング（各種提出書類の準備）					
3. 実習先の概要把握、実習課題の明確化、実習ノートの準備					
4～14. 事業所での実習（一つを選択する）					
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ用品メーカー ・スポーツクラブ（ボディメイク） ・フィットネスクラブ（女性・シニア） ・スポーツメディア企業 ・スポーツ施設コンサルティング企業 ・アスリートマネジメント企業 					
15. 実習報告（プレゼンテーション）と報告書の提出					
【到達目標】					
<p>①スポーツ産業（事業）の運営上生じる問題点を的確に把握できる。 ②把握した問題点に対して適切な改善策を考案できる。 ③考案した改善策をわかりやすく提案することができる。 ④これまでに身につけた能力を実際の業務に役立て、他者と協働して業務を遂行することができる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>実習先および実習期間は、科目担当者と相談のうえ、確定する（自身で実習先を確保できることが望ましい）。与えられた実習先で与えられた課題をこなすのではなく、どのような提案ができるかを考え、主体的に取り組むことを求める。守秘義務を順守するとともに、「報・連・相」の実行を徹底し、事業所の一員として全体の利益に貢献する姿勢を持つこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>実習に向けた各種準備、実習中のノート作成や実習先から提示された課題、実習後の実習報告書（レポート）作成やプレゼンテーションの準備等は全て時間外学習となる。必ず、作成・提出期日を厳守すること。</p>					
【教科書・参考書など】					
特に定めない					
【成績評価方法】					
実習前準備及び実習中の評価等50%、実習の報告及び報告書の評価を50%を基に総合的に評価する。					
【関連科目】					
スポーツマーケティング特講、スポーツ組織論特講					

科目名	舞踊団実践演習		担当者	坂本 秀子	
英文名	Practical Seminar in Dance Company				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
【授業概要・方法】					
<p>現在、活躍しているバレエ団、舞踊団、カンパニー、舞踊研究所等の公演活動（主に制作スタッフとして、場合によっては踊り手を兼ねても良い）に参加し、舞台上演に至るまでの経過を辿る。専門的な舞台制作の知識とその活用を通して、様々な体験を積むことを目的とする。また、舞踊団、バレエ団の日常のレッスン（年齢別、習熟度別など）について調査、研究し、理想の指導方法を模索する。</p>					
【授業計画】					
1. 作品成立のための諸条件など基本的な事柄について			9. 各バレエ団、舞踊団におけるレッスンの見学または参加(2)		
2. 舞台上演についての具体的な手順について(1)			10. 各バレエ団、舞踊団におけるレッスンの見学または参加(3)		
3. 舞台上演についての具体的な手順について(2)			11. 発表、ディスカッション(1)		
4. 各バレエ団、舞踊団における公演活動の実践的体験、研究(1)			12. 発表、ディスカッション(2)		
5. 各バレエ団、舞踊団における公演活動の実践的体験、研究(2)			13. 「芸を極めること」とはどういうことかについて考える		
6. 各バレエ団、舞踊団における公演活動の実践的体験、研究(3)			14. 「創作者、舞踊家、指導者として大切なこと」とは何か		
7. 日常的なレッスンはどうあるべきか、理想的な形態を探る			15. 総合討論		
8. 各バレエ団、舞踊団におけるレッスンの見学または参加(1)					
【到達目標】					
何事にも興味を持って、自主的に調査・研究し、己の研究活動や舞踊活動に役立てられるようにする。					
【受講上の留意点】					
舞踊の専門ジャンルは問わないが、研究心を持って取り組んでほしい。					
【授業時間外学修】					
授業参加前にバレエ団、舞踊団の事前調査、授業参加後に実習レポート、最後に講義全体のレポート提出。					
【教科書・参考書など】					
適宜プリントなどを配付する。					
【成績評価方法】					
レポート点70%、授業への参加度30%					
【関連科目】					
舞踊教育法特講、舞踊表現論特講					

科目名	健康運動指導実践演習		担当者	永野康治	
英文名	Practical Seminar in Health Fitness Program				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
【授業概要・方法】					
<p>横浜市スポーツ医科学センターにおける健康増進を目的とした各種運動プログラムを通し、対象者の心身の状態に合わせて安全かつ効果的に指導するための実践的スキルを習得する。これまでに習得した理論を基盤とし、各種測定（身体組成・体力測定）の実施方法、レジスタンストレーニング、運動療法、有酸素運動、ストレッチングの具体的な指導技法を実践形式で学ぶ。具体的には運動療法エクササイズコース、スポーツプログラムサービス、筋力・姿勢改善教室、トレーニングルーム運営、リハビリテーション室見学などを行う。</p>					
【授業計画】					
1. オリエンテーション、施設の概要		9. 筋力向上・姿勢改善教室体験(2)			
2. 施設マネジメント、プログラムの概要		10. 筋力向上・姿勢改善教室体験(3)			
3. 健康運動指導実践(1)		11. トレーニングルーム運営体験(1)			
4. 健康運動指導実践(2)		12. トレーニングルーム運営体験(2)			
5. 健康運動指導実践(3)		13. トレーニングルーム運営体験(3)			
6. スポーツプログラムサービス概要説明		14. スポーツリハビリテーション室見学			
7. スポーツプログラムサービス見学		15. 総合討論			
8. 筋力向上・姿勢改善教室体験(1)					
【到達目標】					
<p>対象者の特性（年齢、体力レベル、疾患の有無）に応じた運動指導の留意点を説明できる。 身体組成や各種体力の適切な計測方法と解釈を説明できる。 基本的な運動種目（筋力トレーニング、有酸素運動等）を対象者に対して指導できる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>健康運動指導士、健康運動実践指導者資格もしくは関連する医療資格、トレーニング資格を取得している者を受講対象とする。 実習先病院の受け入れ状況によっては開講できないことがある。</p>					
【授業時間外学修】					
実習ノートの記録、実習内容の発表資料作成					
【教科書・参考書など】					
なし					
【成績評価方法】					
実習ノート(80%)，総合討論でのプレゼンテーション(20%)					
【関連科目】					
スポーツ医学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ外傷リハビリテーション特講、健康スポーツ指導方法演習					

科目名	保健体育科指導実践演習		担当者	須甲理生	
英文名	Practical Seminar in Health and Physical Education				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
【授業概要・方法】					
<p>本科目では、学習指導要領において求められる体育科・保健体育科の資質・能力を子供たちに習得させていくために教師として必要な実践的指導力の形成を目的としている。具体的には、大学近隣の小中学校および高等学校（連携協力校）等での体育科・保健体育科の授業等の実習・観察・補助活動等とその省察を通して、理論と実践の往還による「理論の実践化」と「実践の理論化」の双方向の学びを深めていく。本科目の1回目と2回目において、実習等を実施する学校を確定するとともに、各自の実践研究課題を設定する。実習等を実施する場合は、小・中・高・特別支援等における学校教育実践に限定する（部活動指導等は含む）。その後、各学校において実習等の体験を30時間以上行い、本科目の中間及びまとめの段階では、実習等の経験に関するプレゼンテーションとディスカッションを行っていく。</p>					
【授業計画】					
<p>1. オリエンテーション：各自のこれまでの教育実践の振り返りを行うと共に、実習等を実施する学校を設定する。</p> <p>2. 各自の実践研究課題の設定：実習等の具体的な計画を立てる。また、各自で実践研究課題を設定する。</p> <p>3. 学校現場毎の実習等①</p> <p>4. 学校現場毎の実習等②</p> <p>5. 学校現場毎の実習等③</p> <p>6. 学校現場毎の実習等④</p> <p>7. 学校現場毎の実習等⑤</p> <p>8. 実習等の実践の省察①：各自が立てた実践研究課題に基づいて、実習等に関するプレゼンテーションを行うとともに、協働的な省察を行う。</p> <p>9. 学校現場毎の実習等⑥</p> <p>10. 学校現場毎の実習等⑦</p> <p>11. 学校現場毎の実習等⑧</p> <p>12. 学校現場毎の実習等⑨</p> <p>13. 学校現場毎の実習等⑩</p> <p>14. 学校現場毎の実習等⑪</p> <p>15. 実習等の実践の省察②：各自が立てた実践研究課題に基づいて、実習等に関するプレゼンテーションを行うとともに、協働的な省察を行う。</p>					
【到達目標】					
<p>(1) 指導技術、授業観察力、教材構成力等の効果的な実践的指導力を身に付ける。</p> <p>(2) 実践研究課題に基づき、実践的指導力の形成や指導改善等のための効果的な協働省察を行うことができる。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>学校現場等の先生方と連携協力し、学び続ける姿勢で実習等に取り組むことが必要である。また、実習等では、学校現場の児童・生徒の学習に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、責任を持って取り組むことが求められる。なお、本科目の履修については、原則として、大学院入学時点までに、「小学校教諭免許状、中学校教諭免許状（保健体育）、高等学校教諭免許状（保健体育）」のいずれかを取得していることを条件とする。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>実習等の指導計画作成と指導実践から改善点を見出す省察課題を実施する。また、中間及び、最終授業における実習等に関するプレゼンテーションを作成する必要がある。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。</p> <p>〈参考書〉</p> <p>白旗和也 編著『中学校・高等学校 体育科教育法』建帛社（2021年）</p> <p>岡出美則 他 編著『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店（2020年）</p> <p>森良一 編著『保健科教育法（改訂版）』東洋館出版社（2020年）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房</p> <p>この他、各出版社における保健体育科の教科書及び副読本</p>					
【成績評価方法】					
<p>省察課題を40%、中間及び最終プレゼンテーションとレポート課題を60%として評価する。</p>					
【関連科目】					
<p>保健体育科指導方法演習Ⅰ、保健体育科指導方法演習Ⅱ、体育・スポーツ教育論特講</p>					